

神奈川県立神奈川近代文学館

指定管理者 提案書

団体名	財団法人神奈川文学振興会
-----	--------------

## 団体の概要

(平成 22 年 4 月 20 日現在)

団体名	財団法人 神奈川文学振興会		
所在地	〒231-0862 横浜市中区山手町 110	電話番号	045-622-6666
代表者	理事長 佐藤 俊 (筆名 紀田 順一郎)	FAX	045-623-4841
設立年月日	昭和 57 年 1 月 25 日		
沿革	<p>昭和 57 年 1 月 財団法人神奈川文学振興会設立発起人会開催。</p> <p>" 4 月 神奈川近代文学館の運営団体として設立許可。第 1 回理事会。</p> <p>昭和 58 年 7 月 機関紙「神奈川近代文学館」創刊。(現在 108 号まで発行)。</p> <p>" 尾崎一雄文庫、木下空太郎文庫などを受贈。(現在文庫数 43)</p> <p>昭和 59 年 6 月 文学館貸会議室の利用開始。</p> <p>" 10 月 文学館開館、「開館記念展」開催。(現在まで 62 回の特別展を開催)</p> <p>昭和 60 年 4 月 神奈川県博物館協会、神奈川県図書館協会加盟。</p> <p>昭和 61 年 3 月 収蔵文庫目録(1)「尾崎一雄文庫目録」刊行。(現在第 17 集まで刊行)。</p> <p>" 4 月 「友の会」発足。</p> <p>昭和 62 年 4 月 日本博物館協会加盟。</p> <p>昭和 63 年 1 月 第 1 回「神奈川文学散歩展」(三浦) 開催。(以後「箱根、県央」まで 7 回を開催)。</p> <p>" 所蔵資料総数 30 万点を超える。</p> <p>" 11 月 図書データ電算入力開始。</p> <p>平成 3 年 4 月 雑誌、肉筆資料データ電算入力開始。</p> <p>" 日本図書館協会加盟。</p> <p>平成 4 年 3 月 国立国会図書館マイクロ化事業に協力。</p> <p>平成 5 年 所蔵資料総数 50 万点を超える。</p> <p>平成 6 年 3 月 文学館維持管理も財団に委託され全面委託に。</p> <p>" 増改築工事竣工。</p> <p>" 10 月 「開館 10 周年・増築落成記念 収蔵コレクション展」開催。</p> <p>平成 7 年 幹事館として全国文学館協議会創設に参加。</p> <p>平成 8 年 8 月 文学館ホームページ開設。</p> <p>平成 12 年 「神奈川近代文学館をサポートする経営者の会」発足。</p> <p>" 所蔵資料総数 80 万点を超える。</p> <p>平成 16 年 10 月 「開館 20 周年記念収蔵コレクション展」開催。</p> <p>平成 17 年 3 月 指定管理者制度導入に伴う神奈川近代文学館条例改正 4 月施行。</p> <p>" 所蔵資料総数 100 万点を超える。</p> <p>平成 18 年 4 月 指定管理者として神奈川近代文学館の運営開始。</p> <p>平成 21 年 4 月 初の館蔵資料画像目録「中島敦文庫直筆資料 画像データベース」を刊行。</p> <p>" 所蔵資料総数 110 万点を超える。</p>		

業務内容	(1) 文学資料に関する調査研究、文学資料の収集、保存及び公開 (2) 文学の振興と文化の発展に寄与するための展覧会及び講演会、講座の開催 (3) 文学資料及び研究成果に関する各種刊行物の編集及び発行 (4) 神奈川県が設置する神奈川近代文学館の管理運営 (5) 神奈川県内における文字活字文化振興事業の実施 (6) その他目的を達成するために必要な事業			
主な実績	四半世紀にわたり近代文学資料の収集を継続し、111万点の所蔵を実現。うち80%が寄贈である。肉筆資料及び図書、雑誌など所蔵する資料のほぼ100%を電算化しており、ほぼ全ての資料がインターネットを介して検索が可能となっている。体系的なコレクションの総覧である文庫目録を17冊刊行し、更に21年度には肉筆資料の画像を集積した文庫目録の刊行も行った。1984年以来74回の企画文学展（うち特別展62回）を開催。2004年には常設展をリニューアルしたほか、館蔵資料を紹介するコレクション展を9回開催。そのほか講演会、講座、朗読会、映画会などを毎年度多くの企画を運営。オリジナルの文学解説ビデオを62タイトル制作。			
財政状況 (過去3年間に ついて記入し てください)	年 度	平成19年度	平成20年度	平成21年度(見込)
	総収入	455,403,289円	441,303,439円	469,950,690円
	総支出	455,398,126円	441,288,251円	469,950,690円
	当期損益	5,163円	15,188円	0円
	累積損益	39,616円	54,804円	54,804円
応募に関する担当連絡先				
氏名	あんどう かずしげ 安藤 和重	部署・職名	総務課・課長代理	
電話番号	045-622-6666	FAX	045-623-4841	電子メール <a href="mailto:soumu@kanabun.or.jp">soumu@kanabun.or.jp</a>

(※) 欄が不足する場合は、別紙を追加してください。

# 目 次

## 団体の概要

### 1 サービスの向上について

5

#### 1 指定管理業務実施にあたっての考え方について

##### (1) 指定管理者としての基本姿勢について

5

ア 施設の設置目的や公の施設としての役割・運営方針に関する考え方について 5

イ 業務の一部を委託する場合の業務内容等の状況について 8

#### 2 適切な管理運営について

##### (1) 施設及び設備の維持管理に関する業務について

9

##### (2) 利用承認等に関する業務について

12

##### (3) 事業実施に関する業務について

13

ア 事業の実施に関する業務について

(ア) 近代文学資料の収集、整理、保存、公開、その他の事業の実施に関する業務について 13

(イ) 展覧会等の開催 17

(ウ) 学校教育、生涯学習との連携事業、文字活字文化の振興、地域、他の文学館・博物館との連携事業、広報・広聴等に関する業務の実施方針、企画について 22

(エ) 事業の収支バランスの安定を図る取組みについて 23

イ その他近代文学館の設置目的を達成するために自主的に実施する事業

(ア) その他近代文学館の設置目的を達成するために自主的に実施する事業 24

(イ) 運営改善のための継続的な評価活動について 26

#### 3 利用者への対応について

##### (1) サービス向上及び利用促進のための取組みについて

28

ア 利用者サービスの向上に向けた取組みについて 28

イ 利用者ニーズの把握及び事業等への反映並びに苦情処理やトラブルへの対応について 29

ウ より多くの利用を図るために行う広報・PR活動について 30

#### 4 安全管理について

##### (1) 日常時の安全管理について

32

##### (2) 緊急時の対応について

33

## III 団体の業務遂行能力について

## 1 人的な能力について

## (1) 執行体制について

ア 運営組織の構成と考え方について

イ 組織運営に必要な職員の職能と人数について

## (2) 人材育成等について

## 2 法令等を遵守する能力について

## (1) 諸規程の整備について

## (2) 個人情報の保護について

## (3) その他について

## 3 これまでの実績

## (1) 展覧会の開催 (h18-h21)

## (2) 講演会等の開催 (h18-h21)

## (3) 文字活字文化振興事業 ((h18-h21))

## (4) 資料収集 (h18-h21)

## (5) 維持管理事業

## (6) 自主事業 (管理費) =財団本部事業

## I サービスの向上について

### ■ 1 指定管理業務実施にあたっての考え方について

#### □ (1) 指定管理者としての基本姿勢について

##### ア 施設の設置目的や公の施設としての役割・運営方針に関する考え方について

神奈川近代文学館は、神奈川という近代文学にきわめてゆかりの深い地域の貴重な文化遺産である近代文学資料を散逸から守るとともに、文学の多面的な魅力を広く紹介し、様々な文学振興の事業を行うための総合的な文学館として設置されています。それらを実現していくためにこの館は閲覧室、展示室、会議室という3つのスペースを有しています。

閲覧室は、収集資料を利用する読書・研究・学習の場として、また、展示室は、展覧会を通じて作家や作品への入口として、あるいは新たな魅力を再発見する場として、さらに会議室は、文学活動の拠点や催事の舞台としての機能を果たしています。文学に親しむいろいろな形—「読む」「見る」「聞く」「語る」「学ぶ」—のすべての活動に対応可能な機能を持つ総合的な文学館として、神奈川近代文学館は存在していると考えます。

#### 基本スタンス1

##### ◆ 開かれた文学館を目指して

- ◇ 純文学、大衆文学、児童文学、詩歌などあらゆる文学ジャンルを事業の対象としていきます。
- ◇ 講演会や朗読会、映画会、文学散歩などあらゆる角度から文学へ通じる道を開拓していきます。
- ◇ 一部の専門家だけでなく誰でも館蔵資料を利用できる環境をインターネットでの資料検索により提供しています。今後もデータをさらに充実し、より利用しやすい環境を整備していきます。
- ◇ 展示で紹介した作品は「見る」だけでなく、閲覧室で気軽に「読める」ように開架提供します。
- ◇ 子どもに対してもその年令に応じた文学の入口となるように児童文学展、挿絵展、読み聞かせ、紙芝居などを夏休みを中心に恒常的に企画していきます。
- ◇ 貴重な資料を死蔵することのないよう、プライバシー等に十分配慮しつつ研究発表などの利用に配慮していきます。
- ◇ 展示のキャプションなどの解説は平易な表現でわかりやすさを心懸けます。
- ◇ 文学に触れられる環境を提供するため、開館日の設定なども弾力的に検討していきます。
- ◇ 生涯学習の拠点として人生の充実期に余裕の出来た時間で文学に深く親しめる場として文学館を位置づけていきます。
- ◇ 会議室を提供する上では、設置目的に合致した文学関連の利用を促進する一方、それ以外の利用であっても公平な提供を旨とします。
- ◇ 他の文学館や美術館に対する貸出提供、事業協力などにより全国的な文学事業に貢献していきます。

#### 基本スタンス2

##### ◆ 文学遺産の後世への継承

- ◇ 所蔵している資料を良好な状態で後世に伝えるための保存技術、知識の習得に努めます。
- ◇ 貴重資料が過剰な利用に供されないよう文化資産の利用と保護保存とのバランスをとった運用管理を継続していきます。
- ◇ 電磁的形式の資料など従来にない形態の資料についても保存、利用の方法を検討していきます。
- ◇ 保存、利用双方の観点から肉筆資料の画像データの製作を進めています。

**基本スタンス3****◆ 専門性の保持**

- ◇ 展示においても、資料整理・公開においても専門家の要求に応じる水準を保ちます。
- ◇ 近代文学資料の宝庫として全国的に注目されるような施設を維持していきます。
- ◇ 展示では観る人のレベルに応じて収穫があるような内容を目指していきます。
- ◇ 専門図書館として公共図書館での対応が難しい閲覧、調査に協力します。
- ◇ 入館者数だけではなく現在陽の当たらない作家、作品などにも目配りし文学愛好家の要求に応えます。
- ◇ 画像データなどは研究資料としての使用に耐えるものを製作していきます。

**基本スタンス4****◆ 外部との連携**

- ◇ 展示の共催、巡回など他館との連携をより密接にしていきます。
  - ・ひとつの展示をより多くの地域の人々に提供できるように共催、巡回をはたらきかけていきます。
  - ・経費を効率的に使うためにも大切な方法です。
- ◇ 人的ネットワークとしての支援組織の再編を行い、活性化を図ります。
  - ・新法人になった際には、従来までの役員、評議員の数が維持できなくなります。そこで文学館を支援するための財産である「人のネットワーク」が損なわれないように「文学館懇話会」を立ち上げ、強力なサポート組織となるようにしていきます。
  - ・文学館を盛り立てるための「友の会」や支援組織である「文学館を支援する会」などの組織を積極的に運営していきます。
- ◇ 学校授業または行事利用の機会を増やし、学校教育との連携を一層図って行きます。
  - ・授業の一環として、教室では得られない文学との出会いを提供します。
  - ・教師の方との連携により国語の授業や文学教育等に奥行きを持たせることを目指します。すでに中高一貫校を対象にした文学館利用の研修を行いましたが今後継続発展させていく方針です。学校サイドからの要望にも耳を傾けていきます。

**◆資料収集・保存・公開の基本方針**

- 寄贈を中心とする収集を継続し、一層の所蔵資料の充実を図ります。
- 充分な収集スペースを確保し、かつ外部収蔵施設等の可能性を検討します。
- 所蔵資料の100%データ化を目指し、利便性を追究しデータを洗練していきます。
- 展示施設と閲覧室を有機的に連携させ、閲覧者の増大に努めます。
- 肉筆資料等の整理の促進に力を入れ、同時に電磁データの保存活用も研究して行きます。

**○寄贈を中心とする収集の継続**

理事、評議員、文学館懇話会会員をはじめとする財団の豊富な人脈から生まれる寄贈、或いは今までの実績への信頼によって生まれる寄贈により一層の資料の充実を図ります。

**○収蔵スペースの対応**

収蔵スペースが手狭になっていますが、配架方法の工夫や収集段階での吟味、他館への移管などに

よってスペースを確保し、貴重な資料の寄贈に応えられる状況を維持していきます。

また県と協議しながら、新たな外部の収蔵場所、収蔵空間の可能性を探っていきます。

#### ○資料データの洗練

現在、館蔵資料の97%がデータ化されていますが100%を目指しつつさらに使いやすいデータ作製、効率的作業を検討していきます。

#### ○展示との協調

開催中の展示と連繋して関連図書を開架に出すことなどで展示観覧者を誘導し、閲覧室の活性化を目指します。

#### ○特別資料整理の促進

肉筆資料を中心とする特別資料は館蔵資料の中核を成すもので今後も利用の増加が見込まれます。経験に裏打ちされた専門性の高い整理作業を進め独自のデータベースを構築していきます。

#### ○電磁データ資料などの保存活用と研究

電磁データ資料などの保存活用について研究していきます。

### ◆展示の基本方針

- 大規模特別展と小規模企画展を織り交ぜて配置します。
- 文学を専門とする公益財団ならではの魅力的な文学展を開催します。
- 豊富な館蔵資料を活かした展示を行います。
- 展示施設と閲覧室を有機的に連携させ展示観覧者の学習意欲に応えるよう努めます。
- 県内外の文学館など類似施設との交流を深め、共催展等を企画します。
- 神奈川との関連という視点を生かしていきます。
- 他の芸術ジャンルとのコラボレーションの可能性を考えていきます。
- より効果的な見せ方を工夫し、愉しめる要素を取り入れていきます。

#### ○特定の受容者層に偏らない展示構成

春と秋に大規模特別展、夏に子ども向けの児童文学展、それらの間に小規模企画展などを織り交ぜて、全体として特定の受容者層に偏らないよう構成していきます。

#### ○神奈川近代文学館ならではの魅力的な文学展の開催

利用者のニーズに合わせ大勢の方に支持される集客力のある展示を行う一方、商業ベースだけでは考えられない文学館ならではの展示も開催し文学の魅力を発信します。

#### ○館蔵資料を活用した展示

豊富な館蔵資料の中から各展示にふさわしいものを選び効果的に活用していきます。

#### ○他の文学館など類似施設との共催、連携

より効率的に文学の魅力を広めるために他の文学館などとの共催、連繋を考えています。

## イ 業務の一部を委託する場合の業務内容等の状況について

### 業務一部委託に関する方針

- 「財団経理規程」に則るだけでなく、「県財務規則」にも配慮し、競争を促進することで企業者と適正な価格で契約し、契約の透明性確保を今後も維持します。
- 専門性の高い部門については外部に委託し、根幹業務に当財団職員が持つノウハウや資源を重点的に投入することで、よりレベルの高いサービスを提供します。
- 高度な専門性を要しない工事等については地元中小企業者に配慮し、文学館のある横浜市中区や市内隣接区あるいは県内の業者から契約業者を選定します。

### ○委託の内容と選定方法について

- ・文学館の運営は、展示や資料管理、広報普及活動などの大きな三つの事業に加え、施設維持管理事業も含めた四本柱で成り立っています。これらの事業は、限られた当財団職員の人的資源を有効活用していくために、一部を委託しています。
- ・委託先の選定にあたっては、財団経理規程を遵守し、金額や内容に応じ指名競争入札、随意契約など契約の形態を適切に判断し、高度に専門性を要する業務を除いては県内に本社・支社がある業者を優先して選定しています。特に工事関係は、文学館のある横浜市中区や隣接区の中小企業に配慮し、同地区の業者から優先的に見積を徴収しています。

#### ①「展示業務」について

- (1) 展示会を開催するに当たって、会場の構成や資料の配置、図録の製作やそれに関わる資料撮影などの実務的な部分まで委託する施設もありますが、当財団はほとんど全て職員自らが行っています。しかし、仮設ケースの組立てなどの工事や資料の運搬、額装などの専門的な作業、立体物の撮影などの高度な技術を要する部分は外部に委託しています。

#### ②「資料管理業務」について

- (1) ネットワークの基本的な管理は、システムアドミニストレータ(アドミン=システム管理者)資格を有する職員が日常的に管理しており、基本的な障害への対処は、アドミンを始め職員自らが行っています。しかし、膨大な件数に達する蔵書管理システムの保守管理、ネット犯罪へのセキュリティー対策には高度な専門性を要するため、外部に委託しています。

#### ③「広報業務」について

- (1) 展覧会ポスターの駅貼りや掲示、車内吊りには、鉄道会社などが指定する専門の事業者に作業を委託しています。
- (2) 利用者がより簡単にチケット入手できるよう大手コンビニエンスストアのローソンを中心に行開する(株)ローソンチケットと提携し、ネット予約とコンビニでの店頭販売を実施しています。

#### ④「施設維持管理業務」について

- (1) 法や政令、規則などの規則に従った法令点検、電気工事、専門的な保守管理や警備・清掃などは外部に委託します。

※当財団は施設運営の根幹業務と上記の部門業務を有機的に結びつけ、これからもバランスを持って運営に努めます。

## I サービスの向上について

### ■ 2 適切な管理運営について

#### □ (1) 施設及び設備の維持管理に関する業務について

##### 施設等維持管理に関する基本方針

- 文学館の設置目的の実現に向け、職員と委託業者が一丸となって取り組んでいます。
- 文学館の運営に支障が生じないよう配慮した上で、なおかつ経費節減を実現するための具体的な努力を行っています。
- 作業や工事の内容を精査しより細かく分割発注する事で、一括で請け負う大手業者だけでなく、大手の下請として実績をあげている中小企業者にも門戸を開設して競争することで、大手業者特有の中間マージンの節約を目指します。
- 公園全体の一部、県立施設としての公共性を従事者全員が認識しています。
- 自然の傾斜地を生かしたグランドレベル（1階）が2つある複雑な建物です。来館者誘導、施設のセキュリティについては建物の把握と必要な監視、そして臨機の措置を励行しています。
- 委託業者に対し、文学館に求められる以下のような高い意識を持つよう指導しています。

##### ■警備に求められていること

- ◇ 閑静な住宅街に隣接した港の見える丘公園に存立する文学館は、近隣住民の方や一般の公園散策者からも公の施設として責任ある応対が求められています。
- ◇ 公園内の文学館管理区域や館内における異常事態に的確に対応し、他の利用者への迷惑行為に対しても厳正かつ適切な対処が求められています。
- ◇ 利用者を正確かつ安全に目的地に誘導・避難することが必要です。
- ◇ 来館者には礼儀正しく応対し、文学館の関係者に対しては失礼のないよう顔と名前をきちんと認識するよう努力しています。

##### ■受付に求められていること

- ◇ 文学館の窓口として利用者の質問や要望に的確に対応することが求められています。
- ◇ 開催中の文学展のみならず近代文学についても一定以上の知識が求められています。
- ◇ 歴史や文化の香り高い横浜に慣れ親しみ、山手の周辺地域の土地勘を持っています。
- ◇ 比較的利用者割合の高い高齢者に丁寧に対応することが求められています。
- ◇ 公共施設利用予約システムの参加施設として適切な対応が求められています。

##### ■清掃等に求められていること

- ◇ 来館者に不快な印象を持たれないよう衛生面の管理に特に気を付けています。
- ◇ 公園管理者（横浜市）と手分けして公園の美観の確保に努力しています。
- ◇ 除草や樹木の剪定を実施したり、屋外設備の保全に努めています。

※当財団には、警備から工事業者まで、各専門分野をとりまとめ、適切にコントロールできる経験の蓄積があります。

※当財団は、温湿度の維持だけでなく、事業運営のノウハウを生かし、限られた予算の中で資料への影響を最小限にすべく様々な取り組みを実施しています。

### ■文学館の設備管理に求められていること

◇ 文学館事業に施設や設備面からどのように貢献できるか。事業に専念できるような環境づくりや維持・継続が最重要事項だと考えています。一方、より経費節減するため、また効率的な運用を図るため、ムダを一つ一つ省いた施設運用が求められています。

そのためには…

- ◇ 単なる機器のon/offだけでない温湿度コントロールに最大限配慮した運用に努めること。
- ◇ 経費節減には、単純かつ極端なことは行わず、バランスの取れた細かい積み重ねが大切なこと。
- ◇ 施設や設備を深く理解して、専門業者と技術的なコミュニケーションを行い、ひとつひとつ課題に取り組んでいくこと。
- ◇ 施設設備や周辺管理区域の事故防止を目指すこと。
- ◇ 老朽化した施設や設備の延命措置や取替など具体的な措置を図ること。
- ◇ 資料館における危機管理(停電・火災・地震の復旧、雨水・地下水、崖の崩落等)に備えること。

### ○具体的には……

#### ①経費節減努力について

- (1) 入札指名業者数の拡大(7社→10社)。
- (2) 展覧会の開催雑費、解説図録の制作経費などは、電算を活用したDTP化の普及により、トータル経費を大幅に節減。
- (3) 機器の廃止や再リースを活用してのトータルコスト節減。
- (4) 継続する工事は作業手順書を整備し、新規の工事についてはその都度仕様を精査する上でサービスレベルを維持しながらも見積業者間の競争を促進。
- (5) 導入されるインバーター付パッケージエアコンの効率的な使用による電力費の節減。
- (6) 事務用管理部分の消灯の徹底。
- (7) 省エネ対策のため一部を除き、白熱電球からLED電球に変更。
- (8) 館内のトイレ照明を自動点灯式に変更。
- (9) 空調機の負荷に応じたポンプの台数制御運転の導入。ポンプの最小流量を保護する調節弁の設定値の見直し。
- (10) 配管内の流量低下対策として、空調機の熱交換器の洗浄や配管内のストレーナーを清掃。
- (11) 配管内の流量チェック、各機器の発停時間、発停条件をこまめに記録して、システム全体の負荷を再点検し、ボトルネックとなっていそうな箇所の分析。
- (12) 空調用熱源の取替工事に併せ、電力デマンド計を設置し、チラーの台数制御運転プログラムと連携したシステムを構築。空調機の負荷と蓄熱槽の温度変化を時系列で把握するとともに、各種条件のもと機器が反応するタイミングをバランスの取れた設定値へと変更するチューニング作業を実施。
- (13) 電動機の定格電流対策として、ファン回転数を低下させる取り組みを実施。(空調機AC-9)。

#### ②収蔵庫内等室内環境の向上について

(1) 空調機が動作する各種パラメーターを検証し、温湿度の安定化をきめ細かく行い、同時に機器の保全と一定の環境を維持するような努力をしています。

(2) 春や秋などの中間は換気運転を行っていますが、外気の影響を直接受けるため、外気を取り入れるダンパーをこまめに調整するとともに、展示室など空気が滞留しやすい場所には、適切な位置にサーキュレーターを置いて、省エネについても配慮しています。

### ③施設の長寿命化に向けて

(1) 「神奈川県県有施設長寿命化指針」に従い、危険防止、財産価値保全を目的とした適切な維持管理を継続実施していきます。

(2) 当財団の指示・協力のもとに平成21年度に施工された「近代文学館空冷チラー改修工事」では、施工業者が同年度の「神奈川県県土整備部優良工事部長等表彰」を、元請法人部門と主任技術者部門の両部門で受賞しました。

### ④設備の予防保全の実施

設備の予防保全の対象をよりきめ細やかに洗い出し、早めに適切な措置を実施することで、特定の年度に大規模修理が集中しないよう、ライフサイクルコスト(建設から運営維持解体までのトータルコスト)の縮減化と平準化を目指しています。

### ⑤設備点検対象・内容の精査

状況に合わせた業務仕様書を整備し、効率かつ効果的な運営を継続します。

### ⑥建物や機器に不具合が生じた時は…

来館者や保管する資料、文学館事業や業務に悪影響を与えないよう最大限配慮して管理しています。

#### (1) 問題点発生

ア. 現状調査・問題点の洗い出し

#### (2) 工事の実施

ア. 仕様の立案・作成

イ. 工事上の諸情勢の把握、問題点の明確化とその解決

ウ. 改修・補修工事・委託作業の工程案の作成・日程調整

エ. 施設設置者に企画提案書提出(重要度の高い事項)

オ. 工事後の効果及び評価、関連事項に水平展開(改善等)、再発防止策の実施・検討

### ⑦建物の把握と施設管理上の工夫

施設の経年劣化や収蔵資料量の増加等による室内環境の変化に対応するため、機器の運用などに工夫をこらしたり、各部屋の温湿度変化の傾向など各種データを蓄積してきました。また、展示室の照明具に至るまで、設置した由来やその効果を十分に把握しています。

### ⑧職員による電算機器の管理

電算機器のアドミニストレータ(システム管理者)資格を有した職員が、館内電算システム全体のセキュリティ監視、PC端末の設定などを電算機器保守委託業者の協力を得ながら管理しています。また、個々の職員が数多くの簡易プログラム(マクロ等)を作成し、蔵書管理システムの使い勝手を向上させてきました。

### ⑨蓄積したノウハウの活用

蓄積したノウハウを活用すべく増改築工事の基本設計の段階から参画してきました。また全国から多くの団体による施設見学、運営について相談があります。

(2) 利用承認等に関する業務について

## 利用承認等に関する基本方針

- 「神奈川県立神奈川近代文学館条例」、「(同) 条例施行規則」、「(同) 利用料金要領」、「(同) 利用料金減免基準」に従い、利用承認を行います。
- 利用承認にあたっては「公共施設利用予約システム(e-kanagawa)」を用いて、「神奈川県公共施設利用予約システム利用規約」に則り事務を執り行います。

## ○ 利用料金と利用承認について

## ① 利用料金の設定について

神奈川近代文学館の料金設定は、「神奈川県立神奈川近代文学館条例」で定める料金の範囲のなかで、主に以下の状況を踏まえて設定しています。

- (1) 利用料金収入（観覧料収入等）による年度内の收支バランスの見通し
- (2) 近隣類似施設や県立文化施設の利用料金
- (3) 類似施設の展示会がある場合はその利用料金
- (4) 県使用料や物価の動向
- (5) 近代文学館の維持運営費の動向
- (6) アンケート等による利用者の意識調査

## ② 利用承認の運用について

神奈川近代文学館の施設利用の承認にあたっては、以下の流れになります。

- (1) 「公共施設利用予約システム(e-kanagawa)」による利用者からの利用申請に対し、個別に当財団事務局長が決裁。必要に応じ館長(非常勤: 当財団理事長)に相談。
- (2) 利用承認の運用についてはより公正な判断を行うよう、努力を続けます。

※住民の平等利用を図るため、インターネットで予約できない利用者に対しては、会場の代行予約を行います。

※会議室を提供する上では、設置目的に合致した文学関連の利用を中心に促進する一方、それ以外の利用であっても、利用者の所属や利用内容によって線引きをしません。

## I サービスの向上について

### □ (3) 事業実施に関する業務について

#### ア 事業の実施に関する業務について

##### (ア) 近代文学資料の収集、整理、保存、公開、その他の事業の実施に関する業務について

###### 資料の収集、整理、保存、公開における実績と今後の構想

- 財団の持つ豊富な人的ネットワークを活用し、寄贈を中心とした資料の収集を継続します。
- 神奈川ゆかりの作品に関する資料の充実に一層力を注ぎます。
- 児童文学、大衆文学の資料を重点的に収集する方針を堅持します。
- デジタルデータの原稿収集等にも積極的に取り組みます。
- 類似施設との連携を強化し、専門資料館としての位置づけを確立します。
- 肉筆資料を中心に画像データの製作を推進します。

###### a) 資料の収集について

###### 1. 寄贈中心の収集を継続

###### ○多数の文学学者を理事、評議員に擁する豊富な人脈

理事・評議員をはじめとする財団の役員や関係者が、文壇、出版社、新聞社などとの緊密な関係のもとに貴重なコレクションの寄贈に貢献しています。新制度への移行により役員、評議員の人数が減少しますが、新たに神奈川近代文学館懇話会を組織して、この文学関係者の支援ネットワークの力を維持していきます。

###### ○寄贈者とのコミュニケーション

財団では寄贈の申込みを受けた場合は必ず下見、意見交換を行い、資料内容を把握したうえで受贈します。重複資料の選別など館側の方針を説明し、寄贈者の意向の確認など相互理解に努めてきました。

###### ○信頼の継続

寄贈者の皆さんからは財団の管理運営体制に対し十分な理解と信頼を得て、貴重資料の寄贈が実現しています。これにより2代にわたって追加寄贈を受けたり他の寄贈者を紹介されるなどのつながりができます。購入でも多くの古書店と信頼関係を築いており他に先がけて稀覯資料の情報を得るなどの大きなメリットを得ています。

###### ○資料に応じて対応

寄贈資料の中でも特に大規模なものや特定の文学者に関わる資料コレクションなどについては、文庫として個別に保存しています。これらの中には、一般の図書館では所蔵していない稀覯本も数多く含まれます。また作家の原稿、日記、書簡などの肉筆資料や遺品などは、この世に1点だけ存在する他に代え難いものとして、些細な断簡、メモに至るまで慎重に取り扱い、作家の創作活動の全容を保存しています。

###### ○寄贈資料の精選

新たな寄贈を受ける際は神奈川ゆかりの度合いや、稀少性、さらに館蔵資料とのバランスを十分に見極めて判断していきます。限られた収蔵スペースを有効に利用するために欠かせないことです。

#### ○出版社からの新刊寄贈

大手8出版社から文学関係の新刊書の寄贈をいただきており、購入経費の効率化に大いに貢献しています。これらの出版社が館蔵資料を利用する際は便宜をはかるなどギブアンドテイクの密接な関係を築いています。

#### ○購入による補充

寄贈で形成された収蔵コレクションの不完全な部分を購入によって補い、より完全なコレクションにしていきます。

### 2. 神奈川ゆかりの作品の充実

明治以降の日本近代文学を対象に収集していますが、特に神奈川ゆかりの作家、作品に関する資料は重点的に集めてきました。資料の必要性、重要度の判別には、経験に裏打ちされた職員の蔵書把握が要求されます。展示などに必要な資料や寄贈では補いにくい雑誌の欠号などを的確な購入で収集しています。

### 3. 児童文学、大衆文学資料の重点的収集

設立当初より財団では児童文学、大衆文学関連の資料収集に力をいれてきました。その結果双方の分野で多数の寄贈をいただき、全国的にも極めて特色のある貴重なコレクションとなっています。例えば散逸の著しい大衆雑誌、児童雑誌の収集保存は将来的に意味を持つものと考えます。今後もこの方針を堅持し、一層の資料充実を目指します。

### 4. デジタルデータによる原稿等の収集

ここ数年増加しているデジタルデータ原稿についても、従来の原稿と同様に収集資料の対象とし、整理、保存していきます。一次資料としての位置付けや、研究上の意味などは研究者の意見を取り入れて整理方法を確立していく予定です。また保存技術には未開拓の部分が多いので先端の方法を積極的に取り入れていきます。

### 5. 類似施設との連携強化

手狭になってきた収蔵庫の有効利用も兼ねて重複図書雑誌などを整備し、神奈川県立図書館、全国文学館協議会加盟館をはじめ他の類似施設などへの移管による活用を図っていきます。

### 6. 専門館としての位置付け

肉筆資料類、貴重な図書雑誌の収集を重点的に行いながら、専門資料館としての性格づけを強め、県内外の図書館、文学館との相互支援を強化していきます。

### 平成23、24年度の具体的な収集方針

- 従来どおり財団の理事、評議員を中心とした人脈に加えて、新公益法人への移行にともない、新たに発足する神奈川近代文学館懇話会の会員を通じて寄贈により資料を収集します。
- 収蔵スペースの有効利用を図るため、全国文学館協議会、県内の公共図書館や大学図書館と連携し、3冊目以降の図書、雑誌については共同受贈を進めます。
- すでに受贈した資料に追加の寄贈をいただくことで、より完璧なコレクションを形成していきます。寄贈者との信頼関係がなければできることです。
- 大手出版社8社からの新刊書の寄贈（年間約1,800冊）により蔵書を充実させます。
- 雑誌の欠号を地道に補充し、バックナンバーの完全揃いを目指します。そのため財団

では専門古書業者と永年にわたって信頼関係を培ってきました。  
 収蔵資料の不完全部分、展示使用の資料などを購入により適切に補充していきます。

### b) 資料の整理について

文学者の生涯をかけて形成されたコレクションを、各種利用に対応できるよう整理するには、資料群の性格を見極めることが必要です。財団ではこのような整理を長期的なタイムスパンの中で行っています。

#### 1. 公共図書館にはない詳細な項目までデータ化

独自の分類・入力規則に従い利用者の検索便宜をはかり専門家の利用にも応じられるようにしていますが、さらにデータ以上の資料内容の把握も心がけていきます。

#### 2. 整理完了までの時間短縮

基本入力から詳細入力に至るまでのプロセスを見直すことでより多くの資料をデータ化できるようになっていますが、さらに効率的なデータ化を考えています。

#### 3. 文庫目録製作の効率化

文学者が遺した膨大な資料を丹念に整理していくには継続的な作業が必要です。その中で今までの経験を生かした効率的な方法を確立していきます。従来の冊子目録を簡略化し、コレクションに応じて所蔵情報と画像を組み合わせたデジタルアーカイブを形成するなどコンテンツを充実させて利便性を向上させます。

### c) 資料の保存について

財団では図書や肉筆資料を原形のまま、(図書のカバーや帯も刊行時のまま) 恒久的に保存していくことを第一義に取り組んできました。通常、一般の公共図書館では行っていないことです。今後もこの根幹的な業務をより充実させていきます。

#### 1. 保存技術の向上

資料について黒、虫、卵などを収蔵庫に持ち込まないために、資料搬入時には財団職員が燻蒸を行っており、今後も継続していきます。また資料保存に関する最新知識、資料の取り扱い方、修復技術等に対する知識・経験・技術の周知と継承、意識向上のため館内に保存委員会を設置、研修会などへも積極的に参加して情報の収集に努めています。

#### 2. 保存環境整備への配慮

収蔵書庫の温湿度の管理、資料に適切な装備配架計画、施設の改修案の実施などにより、保存環境設備の維持に努めています。庫内の照明には必ず紫外線防止蛍光灯を用い光による劣化を防いでいます。

#### 3. 貴重資料の複製製作

展示の利用頻度の高い資料は劣化を防ぐために業者と連携して複製を製作しています。さらに効率的な製作を目指します。

#### 4. 保存用品の工夫

中性紙を用いた保存箱やフォルダー、ブックカバーなど装備品の材質にも慎重な配慮をし、安全性の確認された品質の物を選択しています。製造業者と協力して独自に開発したものもあります。今後もさらに有効な用品を検討していきます。

**5. 他館との情報交換、協調**

神奈川県図書館協会などの研修会において保存環境の模範的施設として見学を受けるなど資料保存の実績は他からも高く評価されています。全国文学館協議会の加盟館などへの指導的役割も果たしていきます。

**6. 修復技術の向上**

資料館の使命を果たすために、限られた予算の中で従来の保存状態を維持していかなければなりません。資料の補修について従来の経験に加えさらに工夫を重ね、資料修復技術の向上を目指します。

**7. 資料のデジタル化、画像化**

一部の肉筆資料では、モニターによる画像閲覧を実施していますが、今後も肉筆資料を中心にデジタルアーカイブ化を進めます。また破損の激しい資料、或いは稀少性の高い図書雑誌は、デジタルコピー機の積極的活用等簡易な方法によるデジタル化を検討しています。

**d) 資料の閲覧・公開について****1. インターネットでの資料検索**

図書、雑誌はネット上での検索による遠方からのコピー依頼にも応じており、資料の利用範囲を大きく広げる有効な方法になっています。原稿などの肉筆資料もネット上で検索が可能です。これは全国的にあまり例がなく、初期データ化が終了した肉筆資料は翌年度には検索できるように所蔵情報を公開しています。今後もこのシステムの質を高め、使いやすい資料検索をめざします。

**2. プライバシーと著作権の保護**

電算登録された肉筆資料は閲覧ができますが、その際に生じるプライバシーや著作権の問題には資料受贈の経緯や著作権継承者の事情などを踏まえて一層の注意を払っていきます。

**3. 文学のレファレンスへのきめ細かい対応**

展示制作や資料収集で蓄積した調査データ、ツールを駆使して詳細なレファレンスにも対応します。

**4. 館蔵資料を柱に構成した展覧会**

コレクション展と収蔵資料を紹介していく展示を継続的に開催していきます。また所蔵資料で構成できるようなテーマ展を企画していきます。

**5. 他館との相互貸借などの信頼関係の強化**

全国の類似施設の展覧会に対しては、安全管理を確認のうえ出品協力しており、協力のネットワークをさらに広げていきます。

**6. 県内の市町村図書館や神奈川県博物館協会による小展示への助言、貸出**

所蔵する豊富な資料から公共図書館などの企画展などに貸出可能な資料を提供したり、展示の助言などを行っていきます。

**7. 利用価値の高い特別資料の翻刻、画像化による閲覧**

中島敦文庫画像DVDを制作することによって蓄積した技術、ノウハウをもとに、館蔵資料の中から、閲覧で利用頻度の高い資料や未発表資料の活字化、デジタル画像化を進めます。その際、研究者や愛好家のほか大学図書館や類似施設の動向を見極めながら商品化の可能性をさぐります。今後は富永太郎資料、中村光夫文庫・二葉亭四迷資料、夏目漱石文学論などを対象として検討していきます。

**8. 開催中の展覧会の関連図書コーナーを閲覧室に設置（展示室からの誘導）**

開催中の特別展などに合わせ、その展覧会の主題となっている作家の著書、研究書などを集めた関連図書コーナーを閲覧室に設置します。展示観覧後に実際に作品図書を手に取ることでより深い文学の理解へと誘います。これに応じ展示観覧者を閲覧室に誘導する表示を設置し、閲覧室利用の活性化を図ります。

**9. 出版事業への協力等外部利用の促進**

文学関係の出版や放送局等が製作する文学関連番組、教育番組など文学の振興に供する外部利用について公は公立資料館として情報の提供や資料撮影等で積極的に協力し、資料情報の公開と利用の促進に努めます。

**(イ) 展覧会等の開催****◆展覧会の構想****a) これまでの実績****1. 高い実績と柔軟な構成力**

- 開館以来62回の特別展のほか、平成18年度からは企画展という中規模の展覧会枠を設けて9回開催しました。これにより特別展ではとりあげにくい中堅の作家や、現代の児童文学者を扱う展覧会の開催が可能となりました。
- 展覧会テーマの選択から、構成、資料の所在調査、出品交渉、資料の借用・返却、展示、図録の編集に加え、特に近年はパネル、キャプションの製作などを含め財団の職員が行い、その過程で資料に関する専門的な知識と文学展のノウハウ、印刷・写真技術に関するスキルなどを蓄積しています。
- 展覧会成立の背景には、文学者を中心に組織された財団に対する作家の遺族や関係者、団体の信頼感があり、だからこそ無償で積極的に出品協力していただくことが可能となっています。
- その規模に関わらず各展覧会の企画・編集力は文学愛好家のみならず専門家、全国の文学館の高い評価を得ています。このため、財団が企画構成した展覧会について他の文学館や博物館などから巡回展示を要請されることが多くなっています。
- 25年間、展示資料の管理に関する事故は一件もなく、出品者や資料所蔵施設の厚い信頼を獲得しています。
- 今後、類似施設ばかりではなく、民間の外部組織との連携なども増加することが予想されるなか、どのような文学展にも対応できる経験があります。

**2. 幅広いテーマの展開**

- 作家の個人展のほか大衆文学、児童文学、詩歌、神奈川文学散歩などあらゆるジャンルの文学の総合展、美術との融合展を企画、製作、開催してきました。
- 特に他施設との交流・協力をもとにした企画展、夏休みの子どもたちを対象にしたシリーズ、中小規模の多様な展覧会を数多く開催し、子どもから中高年まで観覧者の幅を広げて安定した入館者数を得ることができました。

**3. 神奈川ゆかりの作品、作家に対する目配りと調査**

- 県内の各地域に関わりのある作品、作家を7回にわたり紹介した文学散歩展を行いました。それぞれの展覧会で制作した図録7冊は、神奈川の文学の全容を把握できる大変利用価値のある資料

です。展示製作の過程で県内の文学関連データも蓄積しました。

- 常設展は任意に来館された観客の目に触れる、文学館展示の「顔」ともいべきものです。そのため文学散歩展の成果や日々の業務で蓄積されたデータをもとに構成したのが、常設展（1）の「神奈川の風光と文学」であり、また常設展（2）の「文学の森へ 神奈川と作家たち」展です。
- 常設展（1）「神奈川の風光と文学」では、県内を横浜、川崎、県央・県西、三浦・湘南、鎌倉の5地域に分け、ゆかりの作品をジオラマやイメージ演出を用い立体的に紹介しています。
- 常設展（2）「文学の森へ 神奈川の作家たち」展では、神奈川にゆかりが深く、また文学史上でも重要である代表的な作家36人をとりあげ、その人生と代表作の魅力をわかりやすく紹介するものです。明治から現代に至るまでを、関東大震災と1945年の敗戦を区切りとして3部門で構成し、特別展の合間に1部門ずつ展観しています。
- 企画展を併設で開催することが多くなるなか、企画展を目的に来館された人が、常設展も楽しめたという意見もたくさん寄せられています。
- 今後も「神奈川の文学」の紹介を軸に、新しい研究成果を反映し、また新収蔵資料を差し替えるなど常設展の更なる充実をめざします。
- 特別展や企画展の中でも、作家と神奈川との関係にスポットをあてたコーナーを設け、また解説文にも神奈川ゆかりの事項を盛り込むなどの配慮をして記述しています。

#### 4. 豊富な収蔵資料の活用

- 開館以来寄贈された、木下空太郎、中島敦、大岡昇平、野間宏、井上靖、埴谷雄高、中野孝次、堀田善衛などの文庫や夏目漱石、富永太郎などのコレクションを中心に作家の個人展を開催しました。また総合展についても滑川道夫文庫、藤田圭雄文庫、鈴木三重吉・赤い鳥文庫などから児童文学展に、山本周五郎資料、子母沢寛資料、邦枝完二資料から大衆文学展に、近藤東文庫、楠本憲吉文庫、荻原井泉水文庫、西脇順三郎資料などから詩歌、俳句展に多くの資料を出品しました。資料寄贈者の顕彰になるとともに、展覧会の充実や資料借用料、運送費などの費用の節減に大きく貢献し、所蔵資料に精通している当財団の力量を発揮しました。
- 特に企画展は館蔵資料を軸に立案したものも多く、地味な作家についての研究促進に寄与しています。また収蔵コレクション展においても資料を並べるだけでなく、村井弦斎展ではベストセラー「食道楽」を、中村光夫文庫展ではその評論活動の軸となった二葉亭四迷をメインに展示を構成するなど、独自の視点を入れて工夫を凝らしています。

#### 5. 経費の効率化や増収への取り組み

- 特別展や企画展の連続開催が多くなったことを受け、相互の展覧会で資料運搬の借用・返却便を共有し、企画展・コレクション展のリーフレット編集やパネル製作を財団職員の手で行うなど経費節減に努力しました。
- 「夏目漱石展」「佐藤さとる コロボックル物語展」など当館で開催した展覧会を再構成してパッケージ化し、全国各地の文学館や博物館に提供、収入を得ています。また「堀田善衛展」スタジオジブリが描く乱世」は堀田の郷里・高岡市に巡回し同様に展覧会編集料を得ました。

#### 6. 他の類似施設、団体との連携・協力

- 企画展の中に、<文学館交流展>という枠組みを作り、他の文学館との相互協力を積極的に図っています。これにより展示資料の借用に便宜を得るだけでなく、関連行事の開催や広報活動においても動員・経済面で大きな利を得ました。国立台湾文学館との共催など相手先は海外にまで及びます。
- 県内の施設との連携では、2009年に神奈川県図書館協会創立80周年記念展を当館展示ホールで開催し、展示の準備に主導的な役割を果たしました。同様に県博物館協会の「横浜開港150周年記念事業」準備に参加しました。
- 県内の公共図書館、学校図書館へ「夏目漱石展」「井上靖展」「中島敦展」などのパネル展巡回を

行い、教育現場への文学の普及活動に貢献してきました。

### b) 特別展・企画展・常設展の今後の構想

さらに多くの来館者を獲得するために、様々なニーズに応じた展示を企画、開催していきます。また観覧者からの要求にも対応する双方向の企画立案をこころがけます。

#### 集客を目指す展示

##### 人気のある作家の個人展を開催します。

- ◇ 作家の個人展はジャンル別の総合展に比し一般に馴染み易く、多くの入館者が望めます。
- ◇ 開催済みの展覧会、神奈川ゆかり、物故作家などの枠をはずし、話題性のある作家の個人展を開催します。
- ◇ 多くの人が文学館に足を向けるきっかけになります。

たとえば…

2011 遠藤周作展(没後15年)	2013 山本周五郎展(生誕110年)
林美美子展(没後60年)	堀辰雄(没後60年)と神西清展
2012 小林秀雄展(生誕110年)	2014 有吉佐和子展
斎藤茂吉展(生誕120年)	2015 坂口安吾展

##### 幅広い年齢層を意識した企画を考えます。

- ◇ ひき続き 夏休みに児童文学の絵画・挿絵展の開催をします。夏休み中の最大の集客対象である小学校、中学校、高校の生徒とその家族を対象とした企画を行っていきます。絵本や原画を活用して「親しみやすさ」を目指しながら、文学館への入り口として、文学館ならではの要素も盛り込んだ企画を毎夏開催していきます。展示品だけでなくクイズ形式のアトラクションを交え文学の世界に入り込むような仕掛けも考えていきます。

たとえば…

2011 安野光雅展(安野光雅美術館開館10周年 交流展)
2012 松谷みよこ・司修展「まちんと」「ふたりのイーダ」
2013 西巻茅子「わたしのワンピース」展

#### 独創性のある展示

##### 独自のテーマによる企画展を開催していきます。

- ◇ 近年、このようなテーマを据えた総合展は経費や集客の面から難しくなっていますが、規模を小さくして経費面をクリアーし文学への様々なアプローチを試みます。

たとえば…

2011 近代文学からのぞく古典文学	2013 戦争と文学展 日清戦争から太平洋戦争まで
2012 作家の年賀状、弔辞展	2014 挿絵と装幀展2—児童文学を中心に

##### ジャンルを越えたテーマ展を開催します。

- ◇ 食と文学など身近で普遍的なテーマを前面に打ち出し、文学に馴染みの薄い層にはたらきかけます。これまで来館したことがない層に来館のきっかけを作り、特別展の入館者増に結びつけます。

たとえば…

- |                           |            |
|---------------------------|------------|
| ・動物と文学展                   | ・食と文学展     |
| ・文学と桜のある風景展               | ・アニメの中の文学展 |
| ・文学と演劇展(獅子文六文庫、福田恆存資料の活用) |            |

### 外に広がる展示

#### 外部と共同で創る展示を推進していきます。

- ◇ 文学館交流展を継続し、全国各地の文学館、記念館などと共同して展覧会を制作、編集し経費の効率化を図ります。またこの展覧会を広く巡回させて企画編集の収入が得られるようにします。
- ◇ 出版社や放送局などのマスコミ、文学団体など外部の組織との共催の可能性を探ります。

#### パッケージ展の提供販売に力を入れます。

- ◇ 所蔵資料のみで構成できる展覧会を編集・製作し、「パッケージ展」として全国の文学館へ販売します。
- ◇ 日本近代文学館と共同製作した「夏目漱石」展のほか、「立原正秋」展、「中島敦」展はすでにパッケージ化されており、今後その販売提供に努めるとともに、館蔵資料を中心とした特別展は今後も終了後、パッケージ化していきます。

#### 学校との連携を強化していきます。

- ◇ 学校との連携、総合学習、調べ学習への協力の一環として、学校へ出張してのミニ展示や展示説明会の開催も提案していきます。
- ◇ 過去の展覧会で製作した写真パネル、地図パネル、さらにはこれまで学校からの要望が強かった製作ビデオの貸し出しなどにも応じていきます。

### 神奈川近代文学館ならではの展示

#### 所蔵資料を最大限に活用し、年間を通してメリハリのある展覧会を製作します。

- ◇ 所蔵資料を展示することで借用に関わる経費の節約を図り、同時に資料寄贈者への顕彰を果たすことができます。また今後の研究へも寄与します。
- ◇ 所蔵資料の内容を十分に把握していなければ作成できない展示です。資料課のデータ入力の成果を展示に反映させ、館としての有機的活動を高めることができます。
- ◇ 館蔵資料を土台としているのでパッケージ化もしやすく、館内での展示以降にも巡回展示やパネル展での活用が図れます。

#### 文学愛好家を引きつける作家の個人展を開催します。

- ◇ 所蔵資料の中から地味ながら静かな人気を保つ作家を企画展として開催します。少数であってもある作家に深い愛着を持つ観覧者へのメッセージは必要であると考えます。

たとえば…

2011 中薗英助展（没後10年）

2013 黒岩重吾展（没後10年）

2012 中野重治「愛しき者へ」展

他にも福田恒存、花田清輝、寺田透、西脇順三郎、吉田満といった館蔵資料のある作家の展示など。

同様に展覧会の開催から資料寄贈につながる企画を開催します。

#### 文庫コレクションのシリーズ展を継続して開催します。

- ◇ '98「神西清文庫」展から'09「中村光夫文庫から没後100年二葉亭四迷展」まで9回開催してきた文庫コレクションを紹介するシリーズ展をひき続き製作します。

たとえば…

2011 添田啞蟬坊、知道文庫展

2013 金達寿文庫展と在日文学展

2012 大野林火文庫展と現代俳句の世界展

**展示のさらなる充実****来館者への展示説明を充実させていきます。**

- ◇ 特別展開催時の展示説明会だけでなく、常設展期間中の学校単位での来館や、他団体の文学散歩による来館者に対し、展覧会への理解と興味を深めてもらえるよう、展示に関する補足的な説明を経験豊富な展示担当者が行います。

**内容の濃い展示図録を刊行します。**

- ◇ 特別展の手引き、総覧として研究の基礎文献ともなり、しかも分かりやすい図録を製作しています。60冊以上の様々なタイプの図録を担当職員だけで製作してきた実績を生かします。

**コーナー展示、スポット展示などをさらに工夫していきます。**

- ◇ 展示内容の理解をさらに深めるため、また新鮮な視点を提供するためのアクセントとして、コーナー展示、スポット展示の役割を重視していきます。

**キャプションの文章を吟味します。**

- ◇ キャプション文に難易のムラが出たりすることのないよう、複数のチェックを通して平明な文体に統一するよう努力します。専門的な用語、言い回しも分かりやすく簡潔な表現を徹底します。

**【参考】上記で提案した今後5年間の展示構想**

2011 特別展	遠藤周作展(没後15年) 林芙美子展(没後60年)
企画展	安野光雅展(安野光雅美術館開館10周年 交流展) 近代文学からのぞく古典文学 中薗英助展(没後10年)
コレクション展	添田唾蟬坊、知道文庫展
2012 特別展	小林秀雄展(生誕110年) 斎藤茂吉展(生誕120年)
企画展	松谷みよ子・司修「モモちゃん」「ふたりのイーダ」展 中野重治「愛しき者へ」展 作家の年賀状、弔辞展
コレクション展	大野林火文庫展
2013 特別展	山本周五郎展(生誕110年) 堀辰雄(没後60年)と神西清展
企画展	西巻茅子「わたしのワンピース」展 戦争と文学展 日清戦争から太平洋戦争まで 黒岩重吾展(没後10年)
コレクション展	金達寿文庫と在日文学展
2014 特別展	有吉佐和子展 挿絵と装幀展2 -児童文学を中心に 動物と文学展
2015 特別展	坂口安吾展 企画展 文学のなかの食事風景

**(ウ) 学校教育、生涯学習との連携事業、文字活字文化の振興、地域、他の文学館・博物館との連携事業、広報・広聴等に関する業務の実施方針、企画について**

**○学校教育、生涯学習との連携**

**①横浜市内の全小学生、中学生へ展示情報提供**

県教育委員会、市教育委員会の協力を得て、夏期の児童文学展について学校を通じて横浜市内の全小学・中学生一人一人へのチラシ配布を継続し、展覧会、行事など親子での館の利用拡大を図ります。

**②公立図書館及び公立高校へのパネル文学展の巡回強化**

県立図書館および県内公共図書館、県立高校図書室等との連携による夏目漱石展、井上靖展、中島敦展など過去に当館で開催した展覧会のパネル文学展の巡回事業についても、新たな作家、テーマの展示を加えつつ、県内各所で開催して行きます。

**③中学、高等学校教員・学校司書との連携**

毎夏に当館との共催で開催される県立総合教育センター研修会に参加する中学・高校の教員、または学校司書研修等において、教員、司書の方たちと一層の連携を図り、巡回文学展等の開催施設を増やします。

**④私立中高一貫校教員との連携の充実**

県内および都内の私立中高一貫校の国語科教員の協力を得て学校教育との連携事業の開催等を実施して行きます。

**○文字活字文化振興事業の基本方針**

**①若年層の<活字離れ><国語離れ>の抑止、読書習慣の普及**

文学館を拠点として読み聞かせ会、朗読コンサートなど多くの文字活字文化振興事業を実施し、青少年の<活字離れ><国語離れ>の抑止、読書習慣の普及等を目指します。

**②国民読書年に合わせた新設読書コーナーの活用**

<国民読書年>に合わせて閲覧室に新設される読書コーナーに展示関連書籍を並べ、展示観覧者の観覧後の読書意欲に応えられるようにします。展示室から閲覧室への誘導を明確にし、閲覧室の利用の活性化を図ります。

**③国民読書年以後も生涯学習支援活動を充実**

<国民読書年>等と連動した生涯学習支援の講座、文学セミナー等を充実し、更にパネル文学展等の巡回を通じて県内公共図書館、高校等との連携を強めて行きます。

**○周辺地域の他の文学館・博物館等との連携事業**

**①山手地区の文化行事への参加、周辺文化施設との連携の強化**

歴史的建造物が点在し、文化芸術の香り高い山手地区にある総合文化施設として、周辺の資料館や文化施設と共同して、地区全体の文化行事、例えばヘフト祭、山手芸術祭などの諸事業を後援、参加し、地域文化の活性化のために中心的な役割を担って活動します。

**②ミュージアムクイズラリーへの参加**

毎年夏休みに中区、西区にある博物館と共同で開催しているミュージアム・クイズラリーや周辺博物館へのバックヤード見学ツアーなどの交流事業等も継続して実施します。

**○広報・広聴等に関する業務の実施方針、企画**

**①広報業務、交通広告等の充実**

展覧会や関連行事の広報を中心に新聞、交通広告などを民間企業の協力を得つつ、無償または低コストで掲出を続け、山手地区に位置してアクセスがやや弱い面を補う努力を続けます。具体的には東京急行電鉄ほか県内私鉄各駅へのポスター等の掲示等を、提携による無償または実費負担程度で実施するなど低予算で充実した周知活動を展開します。また同時に横浜高速鉄道や地域の広報組織（リアル横浜等）との連携により、周辺駅でのPR活動も活発化させます。

**②マスコミ等への対応の充実**

マスコミに対する情報の提供や職員による記事執筆等による種々の広報をもとに、事業及び文学館のPR活動を展開し、県民への周知を徹底して行きます。各新聞社学芸部へのこれまで以上の働きかけ、情報の提供、更に新規事業としては職員の企画参加と出演によるNHK横浜FMの朗読番組の実現などが予定されています。

**(工) 事業の収支バランスの安定を図る取組みについて****収支バランス安定のための基本方針**

- 利用料金収入及び事業収入の増大を目指します。
- 利用料金収入以外の収益の方法を常に開拓し、収支バランスの安定に努めます。
- 公益を目的とした文化芸術事業の運営を行う上で無理なく、事業経費の節減が出来るよう努めます。

**○利用料金及び事業収入****①企画展の充実**

利用料金及び事業収入の更なる増大を目指して、今後も春秋の二回の特別展以外に企画展等を年間複数回実施して行く予定です。

**②講演会等の行事の開催**

特別展や企画展と連携した講演会、朗読会、講座、映画会などの企画を多く開催し、幅広い年齢層の嗜好に合わせた企画を行うことで動員の拡大と収益増を図ります。

**③条例改正への対応**

文学館条例改正に伴い、平成23年度から65歳以上及び高校生から利用料金収入が得られることが受け、これまで採算が厳しかった高年齢層を意識した展示や中高校生をターゲットとした企画も実施可能となると考えます。今後は新たな可能性を考慮した展示企画等の立案も図って行きます。

**○利用料金以外の収入増**

今後とも出版社など企業、または大学、大学図書館等の研究機関、教育団体と共に展覧会を実施することで協賛金収入、または広告料収入等の利用料金以外の収入をより多く受け、収支のバランスを維持する予定です。

**○事業経費の節減****①業務経費の節減励行**

増収のための努力と同時に事業ごとの経費チェックを行い、業務発注の際には厳密に見積合わせを行うことで支出の低減に努めます。従来から実施している節減策（ホームページの作成とメン

テナント、資料撮影・図録製作・広報用印刷物等のデジタル化によるDTP化の促進、展示パネル類の内部製作等)の継続に加え、さらに職員の技術向上を図り、他の業務についても可能な限り内部で処理します。(なお、DTP化は業務に習熟することで、校正作業等を効率的に抑制する効果があり、作業の軽減を図ることが可能となります。)

## ②新たな経費削減の方策

新たな事業経費節減の方策としては、館内全域の照明器具をLED電球へ順次交換し、CO<sub>2</sub>排出抑制を兼ねた光熱水費等の削減を重点的に実施します。また広報普及や展示事業などで一層のデジタル化を進め、著作権処理が可能なものは印刷物のpdfデータ等での配布を行い、紙資源の節減と同時に事業費支出の削減も図ります。予算に余裕の出た分はイベント等事業の充実に充てる予定です。

## ③資料のデジタル化と画像データベース等の充実

補足資料、または原資料であってもスキャン出来るものは全てデジタル化を推し進め、書庫の収蔵スペースの効率化を図ります。例えばこれまで紙ベースで保持してきた新聞切り抜きによる記事情報を全て画像データベース化し、インデックスをつけてインターネット上で検索を出来るように整理することなどについて考えて行きます。

# イ その他近代文学館の設置目的を達成するために自主的に実施する事業

## (ア) その他近代文学館の設置目的を達成するために自主的に実施する事業

### ○機関紙「神奈川近代文学館」の刊行と配布

指定管理と財団自主事業の各活動を総合的に広報し、展覧会に呼応した著名作家の隨筆や県内在住の文学者を中心とした寄稿文、文学活動と行事の情報、資料の収集報告など読者のニーズに応える内容を常に掲載する機関紙の刊行、配布により、文学館事業の周知と文学愛好者の育成を図ります。

### ○文学の奥行きを実感できる講座等のイベント

自主事業により講演会、講座を開催することで、文学の奥行きを実感できる場を提供します。作者、評論家、研究者らが作家と作品、テーマについて語る講座、または創作や文壇の裏話、知られざるエピソードなどを交えた興味深い内容の講演等が好評を得ています。今後も指定管理事業の講演会等とは一線を劃した独自の視点から講師やテーマを設定していきます。

#### ①専門的なテーマや作品解釈の講座等

一般読者にはなじみにくい専門的なテーマや作品解釈について研究者が丁寧に解説します。講義スタイルが生む充実感もあります。

#### ②さまざまなジャンルの講座の開催

往年の編集者や古書店主の興味深い話題で人気の友の会講座は会員向けの行事でしたが一般的の聴講も可能とすることできさらに広い支持を集めていきます。

#### ③朗読会の充実

朗読ブームを背景にコンスタントに人気を集めています。毎回実力派の俳優陣に出演を依頼しています。活字で読むのとは別の魅力が発見できるとアンケートでの評判も抜群です。今後もニーズに応え継続していきます。また、違った魅力を提供できる実作者による自作朗読も検討していきます。いずれも文学館で朗読を行うということに大きな意味があると考えており、この視点を大切にしていきたいと考えています。

#### ④文学の周辺から

落語などの話芸を通じて文学に触れる場や音楽との共演などの可能性も探っていきます。また近代文学作品は、数々の名作映画の原作になっています。当館のホールで文芸映画の上映会を開催するなど異なる角度から文学の魅力を探っていきます。

### ○若年層に対して

子ども向け行事のパワーアップも継続していきます。発信拠点として平成16年度に「かなぶんキッズクラブ」という名称のもとでアピールしています。「子ども映画会」、「読み聞かせの会」や「紙芝居」の会などの行事を地元の関係グループなどと協力して開催しました。この他、県主催の「わくわく体験プログラム」にも参加しています。未来を担う子供たちが文学館を少しでも身近に感じてくれるよう考えていきます。

### ○蓄積した文学情報の提供

#### ①県内文学情報に関する出版、または学校や図書館への情報協力

はまぎん文化振興財団機関誌の神奈川文学散歩特集の出版に当たり、監修者として情報提供、編集協力しました。このように、これからも当財団が文学展や資料収集で蓄積した情報、技法を県内の学校、図書館など類似機関に積極的に提供していきます。

#### ②文学展ノウハウの提供等

学校や類似施設、団体からの要請に応じ文学展制作のノウハウを生かして制作提供または共同制作を行っていきます。実績として「立原正秋展」(於・鎌倉文学館。後援)、「新聞小説史展－高木健夫文庫から」(於・日本新聞博物館。共催)、「神奈川の文学 鎌倉女学校と作家たち」(於当館。鎌倉女学院と共に)、「近藤東展」(於当館。横浜詩人会と共に)などを開催しています。

### ○文学に対する関心や理解を深め、文学愛好者などの交流を促進するための取組み

#### ①友の会活動の充実

財団の自主事業の一つである友の会活動では、文学愛好者を増やし文学への関心を高めるため、そして会員獲得のための活動として文学散歩や文学講座を年間を通じて積極的に展開して行きます。友の会文学講座では専門的なテーマや作品解釈について、研究者がシリーズでじっくりと講義する企画などを実施します。

#### ②支援する会活動と新支援組織の運営

文学を愛好する会社経営者や個人出資者が資金面で財団活動を支援する「文学館を支援する会」、更に新たに財団の役員、評議員を中心に文学者で組織する学術面での支援組織「文学館懇話会」などを積極的に運営し、多くの支援者を受け入れることで、文学館事業と県内での文学振興事業等を盛り上げて行きます。

#### ③文学館の事業活動をPRする活動

収蔵スペースの見学なども積極的に行っていきます。貴重な文学資料がどのように保存されているのか、現場で原稿など貴重資料を目にすることは文学への新しい発見につながるはずです。

### ○全国文学館協議会との連携

全国の文学館等で組織する全国文学館協議会では、会の幹事や部会のリーダー館を務めるなど、財団法人日本近代文学館などと共に幹事館として後発館への指導的な役割を果たしています。今後も同協議会の活動を通して、文学館活動や文学振興事業への理解を働きかける運動を全国的に推進して行きます。

### ○教育機関との連携、実習生やインターンシップの受け入れ

#### ①教育機関、特に国語教育に関する連携

県立総合教育センターの夏の研修は毎回当館で開催されており、バックヤード見学などを実施しています。また私立の中・高一貫校に対しても文学館の利用を働きかけています。今後も教育現場と協調して文学館を国語教育の一環として利用する方策を考えています。

#### ②博物館実習やインターンシップの受け入れ

大学からの博物館実習生やインターンシップ実習生の受け入れを今後も継続します。また大学のゼミ等での一層の活用を働きかけます。

**③教育現場との協力事業**

実際の教育現場の需要を意識しながら、教師用の展示解説パンフレットや生徒用のスタディシートを作成するなど共同事業を進めます。このほか希望に応じて展示や閲覧室、所蔵資料についての出張ガイダンスなどにも対応していきます。

**(イ) 運営改善のための継続的な評価活動について****評価活動についての基本方針**

- 常にアンケート調査を実施し、結果を事業運営に速やかに反映しています。
- 展覧会等の企画評価と検討を行い、動員やリスクマネジメント等に活かしています。
- 自己評価の指針をもとに評価と検討を行い、即時モニタリング等で検証しています。

**○アンケート調査の実施**

展覧会や行事に際しては毎回入場者へのアンケート調査を実施し、一般利用者のご意見、ご感想、ご指摘等をいただいております。また、行事の終了後には調査結果などをもとに成果や反省点を整理し、文章化して月報等に記載します。

**○展覧会の企画評価と検討**

特別展などの企画立案に当たっては、以下のような項目について、問題点やリスクの回避策等を検討し、動員対策や宣伝方法、予算の收支等をあらかじめ勘案の上で決定し、隨時財団内で協議を持ちながら評価と検討を進め、直ぐに次の企画展等に活かす態勢を維持します。展覧会以外の行事についても、〈計画－実施－点検－評価〉の意識をもってサービス向上に努めます。

項目	指標
開催の意義	なぜ開催するか？時期は適切か？なぜ当館で等
タイトル	視認性、アイキャッチの良い悪い、等
話題性	現代性、新発見資料の有無等、マスコミ取材の見込み
動員見込み	年齢層、学校動員の可能性、等
会場構成と出品点数、規模の概要	会場設営費、運送費、借用料、出張費、等
関係者の見込み	出品者、編集委員、執筆者、共催・後援
出品資料の見込み	見所となる貴重資料の出品や円滑な出品交渉の見込み
他館の展示もしくは関連行事の把握	同時期の重複の有無
関連行事の見込み	関連講座、講演会、朗読会で魅力的な人選が可能か。映画会の作品、文学散歩等との連携
ビデオ製作	内容と版権使用料等経費との兼ね合い

**○自己評価の指標と検討後の対応**

自己評価の指標を策定し、業務部門ごとの充実度を測ることによって、館の使命を果たしているか再確認し、利用者満足度の向上をめざします。その結果を観覧者からのアンケートと共にモニタリング月報に纏め、常に評価を検証し、事業に活かすように心がけます。

## 1. 資料調査収集部門の充実度

項目	指標
収集状況、収集方法	収集点数、内容の独自性、寄贈・購入率、等
保存対策	保存環境の良好さ(収蔵庫内温湿度が設定値を超えた時間数)
受入・公開等	受入点数、利用件数
レファレンス	件数、内容記録と情報の蓄積
他機関への貸出	件数、内容
収蔵資料を用いた出版・研究	収集資料を利用した全集刊行、研究論文発表、等の件数

## 2. 展示部門の充実度

項目	指標
展覧会の定量的な要素	観覧者数、入場料収入額、新規来館者数、リピーター率、等
展覧会の定性的な要素	感動・興味を受けた観覧者、観覧料に見合う満足を得た観覧者、展示観覧を契機に読書への関心を喚起できた観覧者、人に観覧を勧めたくなかったか、等の割合

## 3. 企画普及部門の充実度

項目	指標
学校との連携協力	来校数、生徒数、読書への関心を喚起したか、教師用解説パンフレットは役に立つか、等参加者数、満足度
生涯学習	各年代の利用率、満足度(展覧会その他各行事参加者、閲覧利用者)
講演会、講座、朗読会、展示説明会 等	参加者数、満足度、展示観覧者数への反映度、リピーター率、等
会場ビデオ	展覧会のガイダンスとして役立ったか等、視聴者の満足度

## 4. 広報の充実度

項目	指標
ホームページ	アクセス件数、情報源として有用と認められた満足度
印刷物	施設パンフレット、常設展パンフレットへの満足度
マスコミ	展示や行事が新聞、雑誌、テレビ等媒体に紹介、掲載された数

## 5. 社会との連携に関する充実度

項目	指標
友の会、経営者の会	会員数、新規入会者数、会費に比しての特典への満足度、等
博物館実習	参加して学芸員になる意欲が増したと感じた度合、等
類似施設	連携(資料貸出、バイト参加等)の件数
後援、共催等	他館、団体への協力件数、内容

## 6. 来館者への配慮に関する充実度

項目	指標
交通機関	最終的な交通機関からの案内がわかりやすかったか、等
案内表示	初めての来館者でも分かりやすい案内表示、印刷物であるか、等
高齢者対応	来館までのルートは歩きやすいか。案内表示等は見やすいか、等
館内外の環境	展覧会場や閲覧室で心地よく観覧・利用できたか。来館までの周辺環境は不愉快でなかったか。
スタッフ	観覧、利用時のスタッフの対応に対する満足度

## I サービスの向上について

### ■ 3 利用者への対応について

#### □ (1) サービス向上及び利用促進のための取組みについて

##### ア 利用者サービスの向上に向けた取組みについて

###### 利用者サービス向上の取組み

- 開館日及び開館時間について柔軟な運用を行っています。
- 申込手続き及び窓口対応を充実させています。
- 利用者サービス向上に向けた取組みを行っています。

###### ○開館日及び開館時間の柔軟な設定

年間を通じて文学館条例第9条に基づく休館日（月曜日等）と祝日等が重なる場合は、振替なしの開館日とし、開館日が増えるように努めます。また開館、閉館時間についても利用者のニーズに出来る限り合わせ、柔軟な対応をとるようにして行きます。

###### ○申込手続き及び窓口対応

###### ①施設予約システムの充実

県公共施設利用予約システムが、平成22年度から更に使い易い形へバージョンアップしたことに合わせ、館内での申し込み手続きの簡略化などを更に進め、利便性の向上を図ります。

###### ②予約等への個別対応の継続

会議室の申し込みについては他の加盟施設と違い、電話や対面による個別対応を丁寧に行い、ネット予約等に慣れない高齢者の利用に配慮します。そのことで県立の生涯学習支援施設として多くの方に役立つよう努力を継続します。

###### ○利用者サービス向上に向けた取組み

###### ①行事参加のリピーター確保

(1)会議室の予約や行事チケットの入手等について利用者の年齢層に合わせた、きめ細かな接客を行うことにより、リピーターを増やし、行事参加者や貸会議室、ホール利用者を更に展示会場や閲覧室に自然に誘導してシャワー効果により施設全体の利用者増を目指します。

(2)会議室利用者には展覧会パンフレット及び団体割引の情報や閲覧室の利用案内等を必要に応じて適宜配布し、文学館の魅力を多くの方に周知する活動を恒常に実施します。

(3)チケットの入手については今後もローソンチケットなど利用者の利便を考えた最良の入手方法を提供して行きます。

###### ②定員オーバー時の対応

会場満室の場合、完売と知らずに来館されるお客様も多いので別室にモニタールームを設けて講演をリアルタイムで聴講できるサービスを行います。

###### ③閲覧室でのサービスの充実

閲覧室カウンターの業務では、来館者に積極的に声をかけ、所蔵内容の説明や新設される読書コーナーの利用法の説明、更に検索端末での資料の探し方などを丁寧に説明し、初心者にも分かり易く、何度でも訪れたくなるような閲覧室の運営を目指します。

## イ 利用者ニーズの把握及び事業等への反映並びに苦情処理やトラブルへの対応について

### 利用者ニーズの把握等の取組み

- 来館者アンケートを常時行い、利用者の反応をリアルタイムに把握しています。
- 「施設利用満足度調査」を年1回実施して、利用者の実態把握に努めています。
- 「友の会の集い」を毎年開催し、利用者から生のご意見、要望を伺っています。
- 施設利用に当たっての苦情処理には、利用者の声に真摯に対応しています。
- トラブル発生時は、まず担当者が初動対応を行い、周囲の職員が担当者を適切にサポート。速やかに責任者に報告し、責任者の判断のもと適切な措置を図っています。

### 利用者ニーズの具体例

#### ○「来館者アンケート」について

1,000件を超えるアンケート回収結果のうち、積極的・肯定的意見は約8割を占めています(平成21年度実績)。

##### ①好意的な意見として……

(1) 子どもを連れてきたが入りやすくて良かった。地味な分野の展示を見易く、子どもに理解し易いよう工夫しており、文学館の最近の催しあとても魅力的である。

##### ②工夫を求められた意見に対して……

(1) (児童文学展・堀田善衛展) ほかの地域でも是非展示会をやって欲しい。

→「佐藤さとるとコロボックル展」町田市、新潟市へ巡回

→「かこさとし展」秦野市へ一部巡回(朗読コンサートも実施)

→「堀田善衛展」富山県高岡市へ巡回

(2) (作家の) 代表作品を中心に生の声、映像が今後の世代の人々には必要ではないか。

→「瀧澤展」編集委員の高橋睦郎氏の解説VTRを製作

→「堀田善衛展」堀田氏自身の出演した「定家明月記私抄」の自作解説VTRを放映

(3) ミュージアムグッズの売り場と商品を増やして欲しい。

→館内に別置していた展示用ショーケースを有効活用

→レジを工夫し、販売商品点数を増加

#### ○「施設利用満足度調査」について

「来館者アンケート」に加え、非来館者の意見も取り込んだ「Webアンケート」を実施しています。「Webアンケート」は神奈川近代文学館に来館出来ない利用者からの参考意見としても活用しています。

##### ①「Web」アンケートでの好意的な意見として……

(1) 嶽本野ばら、荒俣宏の講演会や文芸映画の上映に取り組むなど、意欲的だ。

(2) HPから所蔵検索ができる便利! ネットでの展覧会の評判はなかなか良い。

##### ②「Web」アンケートで工夫を求められた意見として……

(1) (会議室予約システム) もう少し使い勝手をよくできないか。

→システム一斉更新(平成22年4月1日~)

(2) 大学などの教育機関と連携した活動など、若い世代に積極的に働きかけていって欲しい。

→県立高校の学校司書の協力により、当財団が製作した県内学校図書室巡回パネル展を市内で無料一般開放(座間市)

→教師を対象とした私立中高一貫校研修会開催(文学館)

#### ○「友の会の集い」について

年1回総会開催時に文学館事業の説明や会員からの質疑の場を設けています。文学散歩以外の会員間の交流の場としても機能しています。日頃文学館に親しんだ会員の皆様とコミュニケーションを図ることができるので、建設的な意見交換が行われるようになりました。

**利用者ニーズに対して……**

- (1) 会員限定の講演会を同日開催するようにしました。
- (2) 会員間の交流がより深まる工夫として、自己紹介、意見交換の場を設定しました。
- (3) 文学館の催事、年間計画や方針をひとつひとつ丁寧に説明しました。
- (4) 土日にも文学散歩を開催しました。

**○「苦情処理」について**

寄せられた要望、苦情に対しては即座に検討して対処しています。

**苦情内容に対して……**

- (1) 警察官がバイクで園内を巡回するので注意して欲しい。  
→山手警察署に依頼
- (2) コインロッカーの脇になぜ荷物置き場がないのか。  
→テーブル設置
- (3) 閲覧室内で飲食はできないか。  
→閲覧スペース以外の特定の場所を指定
- (4) 休憩場所に直接風があたるので改善して欲しい。  
→風向調整板を設置

**○トラブル発生に対して**

施設運用にあたっては、様々なトラブルが起き得ます。トラブル対策として、当財団は以下の対策を図っています。

- (1) 指定管理者総合保険に加入しています。
- (2) シフト勤務時においては、責任者や自衛消防隊の所属班員を分散配置し、指揮系統に混乱が生じないよう組織的な運用に努めています。
- (3) 設備の不具合発生時は、速やかに常駐技術員が初動対応を行い、専門性を要するアクシデントについては、業者の対応を待ちます。
- (4) 緊急連絡網により責任者に速やかに報告し遅滞なく判断、処理できる体制を取っています。

**ウ より多くの利用を図るために行う広報・PR活動について****広報・PR活動の取組み**

- 広報・PR活動による文学館事業周知に力を入れています。
- マスコミとの連携等による広報活動に努めています。
- 館周辺地区での周知活動を積極的に展開しています。
- インターネットを利用した予約システム等の充実を目指しています。
- 広報手段の充実を積極的に行ってています。

**○広報・PR活動による文学館事業周知の充実**

展示及び関連事業等の宣伝活動を県内私鉄等の交通機関や多くの民間企業にサポートして貰い、ポスターの掲示、チラシの配布などを恒常的に行うことで文学館の知名度を上げ、事業内容をより多くの方に周知する活動を継続して行きます。具体的には無償又は低予算で東急、相鉄、京急などの企業に企画展ごとにポスターの掲示等を依頼し、広く広報を行なうものです。

**○マスコミとの連携等による広報活動**

新聞社や放送局との協力による文学作品紹介コラムの企画や朗読番組などを実施し、館事業のPR活動等を行って、様々なメディアを通して広報活動を行ないます。既に行なってきたイラス

トレーターの内澤旬子氏との共同作業による館蔵資料の紹介記事連載企画は充分な成果を上げ、22～23年度には館蔵資料による企画展として開催の予定をしており、今後も同様に新たな企画を起ち上げることで、広報活動の活性化を目指します。

○館周辺地区での周知活動

①周辺地区での周知活動の充実

館周辺地区での周知活動としては、横浜高速鉄道等に働きかけ、みなとみらい線各駅でのポスター掲示、チラシ配布など駅改札付近での恒常的な広報活動をより綿密に行います。

②新設されたアメリカ山公園内の掲示版等の設置

県所管課や横浜市都市環境局等の協力を得て元町・中華街駅の新設出口（アメリカ山公園口）付近に掲示板等の設置を目指します。既にアメリカ山公園出口の地図改修については、周辺図の書き換え要請に対して市側から対応がありました。今後も山手地区全体の文化環境や案内標識等の整備のため、地区の文化施設の中心となって粘り強く活動を進めて行きます。また同時に周辺案内図配布設備の設置などを目指して、みなとみらい線（横浜高速鉄道）及び関連企業への働きかけを強化して行きます。

○インターネット、コンビニエンスストアを利用した予約等の充実

電子予約やネット販売などITの利用が県民全般に浸透してきた現状を踏まえ、ローソンチケットのネット環境を利用した予約システムや販売網などを活用することで、特別な設備や人員の負担なく、県民のニーズに即応できるサービスの展開を図って行きます。具体的には郵便振替等より利便性が高く、利用者に負担が少ないチケット販売会社のネットシステム利用による電子予約やコンビニ決済等を今後も積極的に展開して行きます。

○広報手段の充実

神奈川芸術プレス、横浜市のアートナビ、またはかながわマリオンなどの広報誌に積極的に働きかけて、館の展示や行事紹介を行って貰うほか、新聞各紙、TVK、FM横浜などマスコミに記事として情報を掲出して貰い、費用をかけずに広報活動を充実させます。

## I サービスの向上について

### ■ 4 安全管理について

#### □ (1) 日常時の安全管理について

##### 日常時の安全についての基本方針

- 安全管理について常に配慮し、工事業者を指導・監督しています。
- 常に「危機意識」を持ち、業務にあたっています。
- 利用者の立場になって考え、各部署毎に取り組んでいます。
- 組織的・系統的な管理体制を維持し、情報の共有化と職員教育を図っています。
- 業務についての記録は正確かつ丁寧に行ってています。

##### 事故防止対策の実施例

###### ○資料の盗難・汚損・破損防止

- (1)鍵の保管・施錠管理、施設入退室管理を徹底しています。
- (2)経験豊富な職員による指導や取扱いにより、紛失・汚損等の事故を起こさない作業方法と資料に対する安全管理上の高い意識を継承しています。
- (3)資料の状態に応じた保存用品を整備することで、資料の汚損・破損を防止しています。
- (4)外注せず職員自らが燻蒸から仕分け、カバー掛け、データ入力、閲覧の対応をしています。
- (5)相手施設の設備面と管理体制、展示期間や展示方法を十分に事前確認をした上で、類似施設等に資料を貸し出しています。
- (6)資料棚から貴重資料が落下しないよう落下防止ネットを設置しました。
- (7)ブックトラックから資料が落下しないよう資料室や事務所の出入口の段差を解消しました。
- (8)照明器具に紫外線防止を図ったり、資料に塵が付着しないよう定期的に棚や床の清掃を実施しています。
- (9)第1展示室のウォールケースの周囲に断熱材を新設し、外乱による資料への影響を低下させました。
- (10)ケース内の酢酸やアンソニニアの残留具合を調査しました。

###### ○利用者に係わる事故防止

- (1)ノンスリップ加工を施した階段や玄関をこまめに清掃しています。
- (2)床ワックスによる転倒防止のため、適時水モップをかけています。
- (3)展示ケースや閲覧室の仕切りガラス等に飛散防止フィルムを貼っています。
- (4)展示パネルやパーティションの軽量化と転倒防止措置に配慮しています。

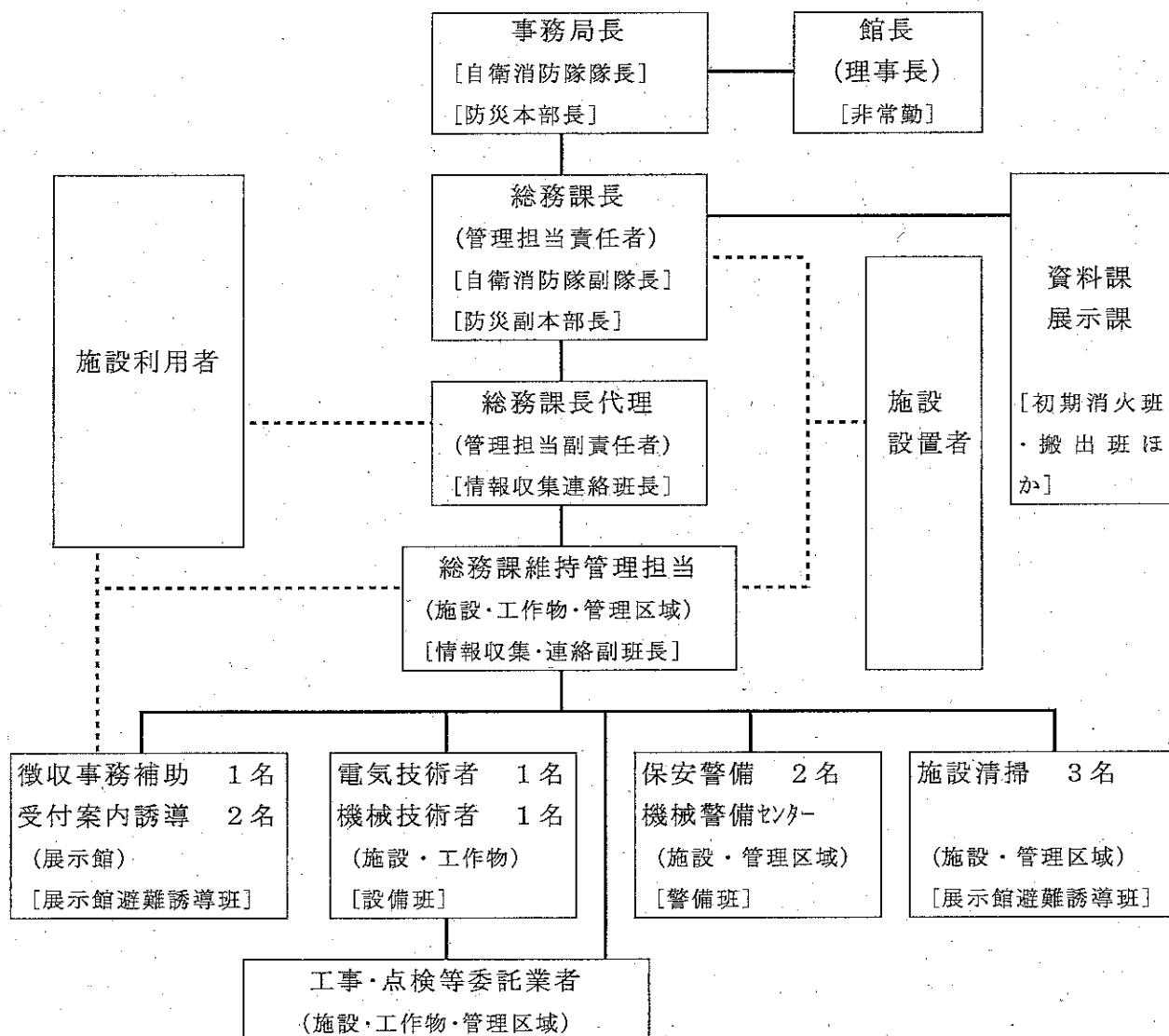
###### ○施設に係わる事故防止

- (1)専門家と共同して、管理区域・施設・設備への巡回監視・保守点検を実施しています。
- (2)屋外設備の施錠管理を徹底しています。
- (3)安全管理の基準に基づき、業者を適切に指導しています。
- (4)不審者・不審物を発見した場合や非常時においては、すみやかに警察に通報します。
- (5)指定数量未満の危険物の保安・運用管理を徹底します。

軽油390L(非常用発電機)、酸化アシビレル1.5kg(燻蒸用薬剤)

## □ (2) 緊急時の対応について

## 業務遂行体制及び緊急時の体制



- 非常時の権限委譲順位を定めています。(事務局長→総務課長→総務課長代理)
- 夜間や休館日における緊急事態には直近の職員が当面の指揮権を代行します。
- 施設内異常警報発報→機械警備監視センター→総務課職員→必要な措置。

## II 管理経費の節減

### ○収支計画

(指定管理) 収入

(単位:千円)

区分	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
指定管理料	391,896	391,896	391,896	391,896	391,896
利用料金収入	8,774	8,824	8,874	8,924	8,974
その他(事業収入、協賛金等)(※1)	6,834	6,884	6,934	6,984	7,034
収入計	407,504	407,604	407,704	407,804	407,904

(指定管理) 支出

区分	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
事業費	46,109	46,109	46,109	46,109	46,109
人件費(給与、各種手当、法定福利費、アルバイト賃金等)(※2)	238,097	238,097	238,097	238,097	238,097
消耗品費	3,185	3,185	3,185	3,185	3,185
事務機器賃借料	26,783	26,883	26,983	27,083	27,183
通信費	2,144	2,144	2,144	2,144	2,144
光熱水費(電気使用料、ガス使用料、上下水道使用料等)	19,465	19,465	19,465	19,465	19,465
修繕費(※3)	4,410	4,410	4,410	4,410	4,410
業務委託料(様式4に記載してください。)	55,423	55,423	55,423	55,423	55,423
その他(租税公課)	11,888	11,888	11,888	11,888	11,888
支出計	407,504	407,604	407,704	407,804	407,904
差額	0	0	0	0	0

(※1) 事業収入、協賛金等による収入の具体的な内訳について、別途作成してください。

(※2) 人件費については、次ページの内訳書「人件費」を作成してください。

(※3) 別紙3リスク分担表に記載のとおり、原則として100万円未満の修繕は、指定管理者が負担することとしていますので、御留意ください。

欄が不足する場合は、別紙を追加してください。

## II 管理経費の節減（内訳書「人件費」）

(1)職員数内訳 (館長 0、常勤職員 26名、非常勤職員等(アルバイト等)10名)(指定以外本部除く)

(2)給与 計 171,409 千円

ア 館長		小計	0 千円
報酬	月額 0 ×	0人×12か月=	0 千円
イ 常勤職員		小計	151,873 千円
給与	月額 334.8 ×	26人×12か月=	104,446 千円
ボーナス等	年額 47,427 千円		
ウ 非常勤職員等(アルバイト等)		小計	19,536 千円
給与	月額 135.5 ×	10人×12か月=	16,254 千円
ボーナス等	年額 3,282 千円		

(3)法定福利費 計 27,019 千円

ア 館長	小計	0 千円
イ 常勤職員	小計	25,150 千円
ウ 非常勤職員等	小計	1,869 千円

(4)各種手当等 計 38,971 千円

ア 館長	小計	0 千円
イ 常勤職員	小計	37,519 千円
ウ 非常勤職員等	小計	1,452 千円

(5)その他 計 698 千円

※給与月額=平均給与月額(単価)

### III 団体の業務遂行能力について

#### ■ 1 人的な能力について

##### □ (1) 執行体制について

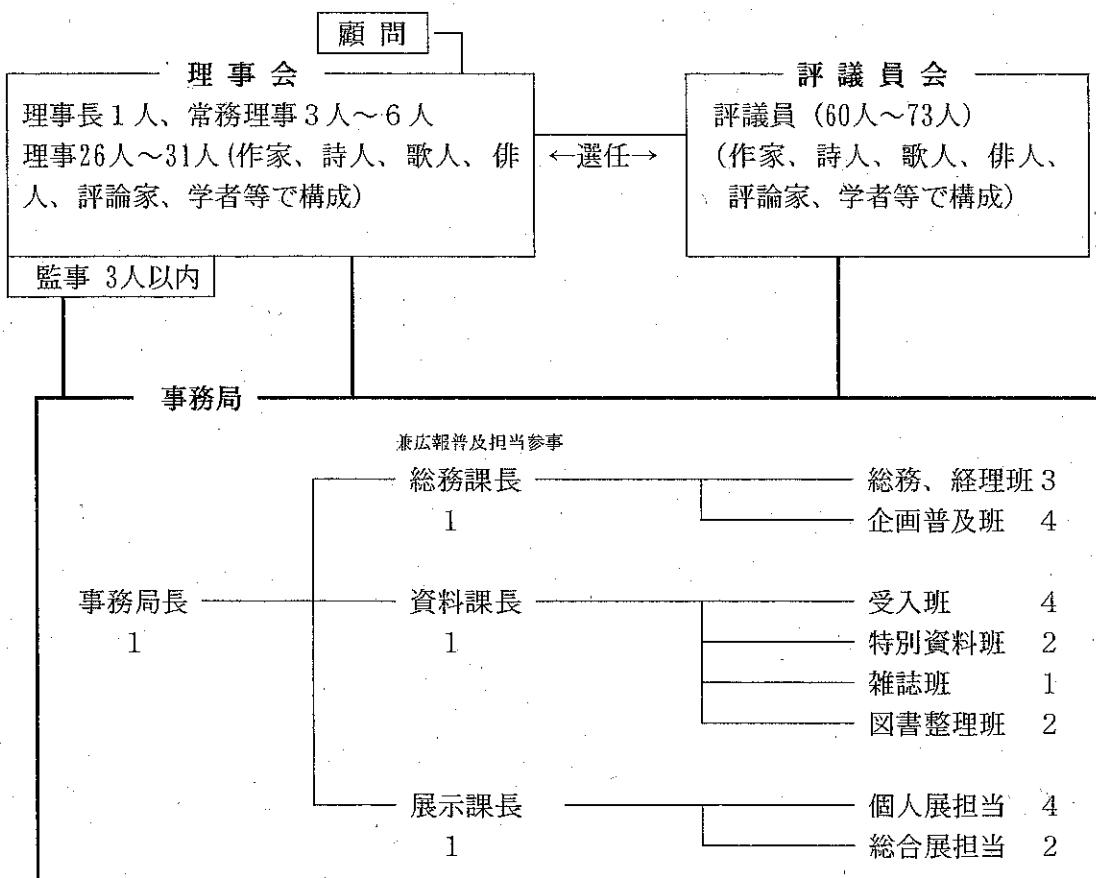
###### ア 運営組織の構成考え方について

###### ○執行体制と諮問機関

文学者を中心に構成する執行機関の理事会で文学館及び財団の事業運営の方針を決定し、事務局がそれに従って事業を実施します。同じく各ジャンルの文学者、文化人等で構成される諮問機関の評議員会が事業の適性を審査します。一般利用者からの要望意見（アンケート）を取り入れた事務局からの提案について理事会及び評議員会でその公益性や内容を検討し、事業に反映させます。

事務局は事務局長以下総務、資料、展示の3課によって構成され、各課に課長及びその補佐役を配し、分掌業務を遂行します。

###### ○組織図



\*配置職員数は資料の寄贈状況、事業の実施状況等によって変動。

※公益認定後は、理事 8～11 人、評議員 12～17 人となります。旧理事、評議員には新設される文学館懇話会を通じて引き続き支援と協力を得ます。

## ○ 総務課 総務経理班

理事会、評議員会の運営、予算決算、電算管理、収支経理、販売管理、物品管理、視察対応、個人情報保護、情報公開、年報

2人

施設の維持管理（ビルメンテ、警備、清掃、受付の指導管理） 会議室利用承認業務、給与福利厚生庶務 防災管理

1人

## ○ 総務課 企画普及班

講演会、講座、朗読会の企画、講師依頼、開催（年間12～15回） ビデオ製作、展示や催事の各種媒体への情報宣伝活動、ポスター、チラシ製作

2人

友の会、文学館を支援する会の管理運営 文学散歩の企画開催 館報の編集刊行（年4回刊行） 映画会、広報発送業務、ホームページの管理

2人

## ○ 資料課全体

カウンター出納業務、レファレンス、コピーサービス（郵送も含む）、蔵書点検

## ○ 資料課 受入班

寄贈者との連絡交渉、寄贈資料選定、収書搬入、燻蒸、購入資料選定、仕分け、カバー等の装備、修復、データ入力

4人

## ○ 資料課 特別資料班

原稿、書簡、メモなどの肉筆資料や遺品、写真資料などのデータ化（プライバシー関連のチェックなど書簡内容、原稿内容の精査、調査照合等含む）、複製製作、館外への資料貸出

2人

## ○ 資料課 雑誌班

雑誌のデータ化、補修、欠号補充、新刊雑誌発注管理、所蔵状況管理、寄贈雑誌整理

1人

## ○ 資料課 図書整理班

図書の分類、精密データの作製、修復、O P A C（オンライン蔵書目録）の作成

2人

## ○ 展示課

企画、調査、構成、館蔵資料調査、編集委員連絡調整、図録編集、キャプション作成、資料借用、返却、会場飾り付け、展示データ作成、展示説明会の実施、新聞紙上への紹介記事執筆、資料出品者との連絡交渉、広報との連絡調整

個人展4人、総合展2人

※事務局と理事、評議員とは寄贈仲介、講演会講師の依頼、館報、図録の執筆など直接の業務のうえでも隨時密接な連携を図っています。

\*事業関連作業の流れは別紙1。

## イ 組織運営に必要な職員の職能と人数について

### ○施設を運営するために必要な組織能力について

文学館運営という業務の性質から職員は近代文学に対する基礎的な知識、関心、愛情、意欲、資料保存への使命感を有していることが必須条件と考えます。

事業部門は学芸員的な要素と司書的な要素の業務に大別でき、総務部門は管理的な業務と企画普及業務に分けられます。当財団で学芸員有資格者は10人、司書有資格者は10人、重複所有者4人となっています。しかし文学館業務は一般的な資格だけでは扱い切れない部分が多く、実務経験によって習得する部分が非常に多くを占めます。作業の大半は一点ずつの資料を扱う手作業を中心で、年間を通じて寄贈資料の処理、さらに収蔵資料を中心としたきめの細かい展示業務や広報普及活動を行っています。また資料課の館外貸出し業務担当は、後発館の資料保存や展示業務の助言、指導という役割も担うというように、すべての職員は一つの業務に特化して従事するのではなく、常に複眼的に文学館業務に関与しています。管理部門においても保存環境の維持に対する見識が要求されるなどすべての業務において文学および資料保存への高い意識が必要とされます。

### ○職員のスキルアップ

経験を積む過程で一人一人の業務能力のスキルアップを行い、作業効率、業務密度を高め、ひとりの職員が担当できる範囲を広げ、職員数は最大時の33名に比べ約20%減員の26名になっています。展示会数、イベント数、資料利用件数など運営全般にわたって業務量は増加していますので上述のように一人あたりの処理能力を向上させて対応しています。したがって現員数の26名はこの事業内容を維持していくための必要人数と認識しています。今後もさらに業務の質の向上に努めていきます。

## □ (2) 人材育成等について

### ◆人材育成の考え方

#### ○人材育成を通じた総合力の強化

当財団では、文学館業務のあらゆる面（資料関連、展示関連、企画普及関連、総務関連）に経験と知識を持ち、対応できる職員の育成を第一義に考えています。そのため部署間での異動を行い、総合的な視点を維持できるようにしています。館事業全般を経験することで文学館を管理運営するための広い視野を持つ人材の育成を目指します。

例えば資料課での資料管理によって得た知識は展示業務に有用であり、展示事業での経験は企画普及業務を補強します。また展示や資料課での経験は予算執行を管理する総務部門での具体的な業務に欠かせません。指定管理者制度以前に得た知識、経験も加え更に総合的な運営能力を高めていきます。

#### ○専門能力の向上を目指した人材育成

総合的な視野と同時にスペシャリストとしての経験を積むことは文学館業務において極めて重要な点です。ひととおり各分野の経験が終了した後は各人の資質に応じ適材適所の配置を行いスキルをみがきつつ後進の指導に当たるといった基本構造を維持していきます。

#### ○チーム作業による専門性の継承

肉筆資料の整理や展示製作といった専門性の高い業務は経験豊富な職員を配したチームで作業することでノウハウが無理なく円滑に継承されていくような体制を維持していきます。またこのことで

中堅職員のリーダーとしての自覚を促すようにしています。

#### ○職員研修等の充実

館事業の質的な高さを維持するため、専門技術等の研鑽を目的に職員を外部研修等へ積極的に派遣し、育成に努めます。具体的には加盟する全国文学館協議会、日本図書館協会、日本博物館協会、神奈川県図書館協会、神奈川県博物館協会各組織が開催する研修会等に随時職員を派遣します。また神奈川県公益法人等連絡協議会が実施する研修講座にも職員を参加させています。

### ◆採用・雇用の考え方

#### ○職員の採用について

業務のノウハウを滞らず継承していくためには世代間に大きなブランクができるないようにする必要があり、職員採用については喫緊の問題と考えています。しかし退職金引当預金の問題を考慮すると採用には十分な計画性が要求されます。指定管理においても人件費に対しては弾力的な裁量を行うという県の理解が必要と考えます。そのうえで新卒者やそれ以外の経験者の中途採用なども選択肢に入れて中長期的な展望に立った計画的な人員募集を実施することで世代間の平準化を行うことが必要と考えています。

#### ○経験者の活用

継続的に若い人材を採用していくことは第一に必要ですが、業務能力の維持と技術の継承のために専門能力の豊富な定年退職者の活用も重要です。再雇用により後進の教育的ポジションを担ってもらうなど効果的な人材配置を検討していきます。

#### ○柔軟な雇用

採用に当たっては職員の理解を得た上で、従来とは異なった雇用形態も考慮に入れる必要があると考えています。また文学館運営に熱意のある経験者のスカウトなども選択肢に入れておく必要があります。

#### ○館の使命遂行

継続的に退職者が生じる時期を迎える前に、文学館の使命を遂行するための将来にわたる業務量・事業規模と職員総数の兼ね合いを県とも協議しながら策定し、職員数・職員構成と採用の長期ビジョンを考えていきます。

### III 団体の業務遂行能力について

#### ■ 2 法令等を遵守する能力について

##### □ (1) 諸規程の整備について

###### ○法令等の遵守と諸規程の整備

当財団は公益法人改革に対応し、平成22年度中の新法人移行を目指しています。公益財団法人への移行に伴い、新たに定められる定款及び諸規程に則り、運営の透明性、健全性、平等性、迅速な意思決定を図るとともに、適切かつ組織的な対応を継続していきます。同時に関係諸法令等の遵守を強化するための体制の維持、充実に一層取り組んでいきます。

###### ①公益法人改革に対応した役員及び評議員の体制の整備

新法制度に沿って公益的使命を充分果たし、有効かつ安全な体制の整備を目指します。当財団は現行の特例民法法人から新体制へ移行し、執行機関としての理事会と諮問機関の役割を担う評議員会で構成され、両輪の機能によって公正かつ安全な組織ガバナンスの構築を行います。新法に従い、役員(理事・監事)は評議員会で選任され、代表理事(理事長)及び業務執行理事(副理事、専務理事)は理事会から選出されます。また独立諮問機関である評議員会は理事の選解任権、定款及び諸規程の審議権を持つなど、指定管理を含む事業全体の公益性を検証し、審査します。

###### ②監査機関の設置

業務の監査機関として、監事による監事監査を実施しており、今後も公益法人の財産状態、資産管理及びその運営状況の適正な状態の確保に努めます。

###### ③指導監督機関との連携

施設設置者と、事業運営に関する意見調整を密に行います。

###### ④組織内管理

事務局の責任者による定例会議を週1回開催し、各課の連絡調整を実施しています。また役員とも密接な連携をとっています。定例会議における議題事項は各課職員会議にて指示伝達され、職員はすみやかに事務に反映しています。

###### ⑤職員綱紀

諸規程の服務規程に職員の倫理に関する事項を設けています。

###### ⑥従事者の労働管理

労働基準関係法令についても、職員教育など必要な措置を実施し、業務の安全推進に努めます。

##### □ (2) 個人情報の保護について

財団では、平成2年から「財団法人神奈川文学振興会個人情報保護規程」を制定し、プライバシーの適正な保護と情報の漏洩防止に努めてきました。さらに平成17年の個人情報保護法施行に伴い、同法の遵守を積極的に取り組んでおり、今後も以下の内容を徹底して行きます。

###### ①安全管理措置

電算処理による情報の運用時及び、窓口対応時における適正で安全かつ強固な保護措置を講じます。また、全課に個人情報保護推進担当者を設け、保護の強化に努めています。

###### ②職員、業務従事者への周知監督措置

個人情報保護に関する知識や情報を従事者へ周知徹底し、漏洩等の事故を未然に防ぎます。

## ③業務委託先への監督措置

## ④個人データのデータベースの正確性・最新性の向上

## ⑤第三者への情報提供の禁止

本人の同意がある場合や法令等で定められた場合等を除き、第三者に開示又は提供しません。

## ⑥利用目的の範囲内での取得

## ⑦苦情についての迅速な対応

問い合わせや訂正、開示、使用停止の請求等についても迅速に対応します。

## ⑧不要になった個人情報の廃棄

所定の期間を過ぎた個人情報は規程に則り確実に廃棄します。

## ⑨個人情報保護に対応した保険の整備

個人情報保護に関する不慮の事故へ対応するため、専用の保険に加入します。

## □ (3) その他について

## その他の事項についての基本方針

- 環境関連法規を遵守し、県立施設の管理者としての責務を全うします。
- 産業廃棄物管理票交付等状況報告制度を遵守し、適正な処理を行っています。
- 職員への啓発活動と運用の周知徹底を図っています。
- オゾン層保護法に適合した資料の燻蒸剤を使用して、燻蒸作業（殺卵・殺虫・殺黴）を実施しています。

## ○環境に配慮した事業の推進

## ①「環境への配慮」についての考え方

- (1) 環境に影響を与える可能性がある行為を検討
- (2) 影響を受けやすい環境要素を分析
- (3) 必要な情報を収集

## ②「環境への配慮」の方策

- (1) 省資源・省エネルギーの推進
- (2) 二酸化炭素等温室効果ガス発生・抑制吸収
- (3) 廃棄物の発生抑制・リサイクルの推進

## ③「環境への配慮」への取組み

(省資源・省エネルギー)

- (1) 改正省エネ法の趣旨に従い、全県的な省エネに向け、文学館のエネルギー使用量の把握・管理を目的とした一覧表を作成しました。
- (2) ペーパーレス化の一環として、コピー用紙の裏紙利用の促進、インターネットメールの活用、収書ダンボールの再利用などの取り組みを継続してきました。
- (3) トイレに人感センサーを設置しました。
- (4) ロビーや廊下などにある白熱灯を節電用の電球型蛍光灯に変更しています。更に今後はより省電力化が可能なLED照明へ全館的な転換を図って行きます。
- (5) 節水ゴマを使用した省資源化を実施しています。

(温室効果ガスの抑制)

- (1) 屋上緑化の一環として、新館屋上に植木鉢を設置しています。
- (2) 「港の見える丘公園」というすぐれた自然景観の保全に配慮し、管理区域内の樹木を大切に

管理しています。

(廃棄物の発生抑制・リサイクルの推進)

- (1) グリーン購入法適合商品等を購入しています。
- (2) 受益者負担を兼ねて、ゴミを排出する会議室利用者には専用のゴミ袋を販売しています。
- (3) ゴミの分別排出、省資源・省エネルギー対策の展開、物品の利活用・リサイクルの推進及び廃棄物の削減などにより、公園内環境汚染の低減と資源消費の抑制に努めています。
- (4) メモ用紙等の紙ゴミを古紙回収対象に組み込み、紙ゴミ排出量の低減を目指します。
- (5) 大気汚染、水質汚濁、騒音、振動、悪臭、土壤汚染、化学物質による汚染などの未然防止。

### III 団体の業務遂行能力について

#### ■ 3 これまでの実績

##### □ (1) 展覧会の開催 (h18-h21) (会場は全て文学館展示室)

神奈川近代文学館運営事業として、下記の内容で文学展を開催しました。

○特別展 4年間で8回開催 年間入場者数平均 31,945人 (うち有料 14,008人)

年度	展覧会名	会期等	観覧者数 (うち有料者数)	1日平均
18	吉屋信子展	4月22日～6月4日 (39日間)	7,488人 (2,366人)	192人
	俳句その魅力展	9月30日～11月12日 (39日間)	6,154 (1,373)	157
	常設展(企画展等)	(6回) (205日間)	13,942 (5,590)	68
	年 度 計	8回 283日間	27,584 (9,329)	97
19	中原中也と富永太郎展	4月21日～6月3日 (39日間)	8,202 (3,585)	210
	埴谷雄高『死霊』展	10月6日～11月25日 (45日間)	5,421 (2,618)	120
	常設展(企画展等)	(6回) (202日間)	15,955 (8,408)	78
	年 度 計	8回 286日間	29,578 (14,611)	103
20	濱澤龍彦回顧展	4月26日～6月8日 (39日間)	8,899 (5,299)	228
	堀田善衛展	10月4日～11月24日 (47日間)	8,380 (3,733)	178
	常設展(企画展等)	(6回) (199日間)	17,619 (7,900)	88
	年 度 計	8回 285日間	34,898 (16,932)	123
21	森鷗外展	4月25日～6月7日 (39日間)	8,220 (2,623)	210
	大乱歩展	10月3日～11月15日 (39日間)	9,453 (5,574)	242
	常設展(企画展等)	(6回) (208日間)	18,047 (6,963)	87
	年 度 計	8回 286日間	35,720 (15,160)	124
総 合 計		32回 1,140日間	127,780人 (56,032人)	112人

○うち (特別展を除く) 企画展等 4年間で13回開催 入場者数54,040人 (うち有料23,698人)  
(常設展と同時開催の展示のため企画展、コレクション展共に上表の常設展の人数に含まれます。)

年度	企画展及び文庫コレクション展等 (*印は共催)	会期等	観覧者数 (うち有料者数)	1日平均
18	中野孝次展	06年6月10日～7月30日 (44日間)	5,339人 (2,089人)	121人
	露伴、茂吉、寅彦と小林勇展	06年11月18日～1月14日 (44日間)	3,427 (1,067)	77
19	収蔵資料展生誕100年記念井上靖展	07年6月9日～7月29日 (45日間)	2,600 (1,093)	57
	佐藤さとるコロボックル物語展	07年8月4日～9月30日 (52日間)	8,494 (5,142)	163
	コレクション展8『食道楽の人』村井弦斎展	08年1月19日～3月2日 (39日間)	1,943 (897)	49

年度	企画展及び文庫コレクション展等 (*印は共催)	会期等	観覧者数 (うち有料者数)	1日平均
20	文学館交流展(台湾文学館の魅力展)*	08年6月14日～8月3日 (45日間)	1,879 ( 649)	41
	かこさとし『だるまちゃんとてんぐちゃん』展	08年8月9日～9月28日 (45日間)	9,259 ( 5,007)	205
	かながわの図書館 自慢のこの一点展*	08年11月29日～1月18日 (38日間)	1,910 ( 676)	50
	文学館交流展「子規から虚子へ」*	09年3月7日～4月19日 (38日間)	6,537 ( 1,690)	172
21	中島敦展	09年6月13日～8月2日 (45日間)	5,060 ( 2,287)	112
	茂田井武展	08年8月8日～9月27日 (45日間)	4,118 ( 1,982)	91
	長谷川時雨展	09年11月21日～1月11日 (40日間)	2,288 ( 671)	57
	コレクション展9 二葉亭四迷展	10年3月6日～3月31日 (21日間) (会期は4月18日まで)	1,186 ( 448)	51
総合計		13回	541日間	54,040人 (23,698人)
				100人

## ○展覧会図録、解説書（リーフレット）類の製作

特別展や企画展の開催に合わせて、展覧会解説のための図録等を製作、頒布しました。

年度	展覧会名	形態	頁数等	製作数	製作形態	備考
18	吉屋信子展	図録	B5/52p	2,500冊	製作/頒布	
	中野孝次展	図録	B5/36p	2,000	製作/頒布	
	俳句その魅力展	図録	B5/64p	2,000	製作/頒布	
	露伴、茂吉、寅彦と小林勇展	図録	B5/24p	1,500	製作/頒布	
19	中原中也と富永太郎展	図録	B5/64p	2,000	製作/頒布	
	佐藤さとるコロボックル物語展	リーフレット	A5/8p(観音折)	10,000	製作/配布	無償配布
	埴谷雄高『死靈』展	図録	B5/64p	2,000	製作/頒布	
	コレクション展8『食道楽の人』村井弦斎展	リーフレット	A5/8p(観音折)	3,000	製作/配布	無償配布
20	澁澤龍彦回顧展	図録	B5/64p	3,500	製作/配布	
	かこさとし『だるまちゃんとてんぐちゃん』展	リーフレット	A5/8p(観音折)	15,000	製作/配布	無償配布
	堀田善衛展	図録	B5/64p	3,000	製作/頒布	共同製作
	子規から虚子へ	図録	A4/78p	2,000	協力/頒布	監修協力
21	森鷗外展	図録	B5/64p	3,000	製作/頒布	
	図説中島敦の軌跡	図録	A4/64p	10,000	協力/頒布	監修協力
	茂田井武展	リーフレット	A5/8p(観音折)	5,000	製作/配布	無償配布
	大乱歩展	図録	B5/64p	3,000	製作/頒布	
	コレクション展9 二葉亭四迷展	リーフレット	A4/8p(観音折)	3,000	製作/配布	無償配布

## ○施設利用及び利用料金収入の状況

(第一期指定管理期間内の実績)

(単位：人)

	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平均
展覧会入館者数	27,584人	29,578	34,898	35,720	31,945人
うち有料入館者数	9,329人	14,611	16,932	15,160	14,008人
会議室利用件数	515回	634	637	744	633回
会議室利用者数	13,366人	22,952	18,050	23,192	19,390人

※上表は、平均値の算出の関係上、合計欄が合わない箇所がある。

(第一期指定管理期間内の実績)

(単位：千円)

	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平均
観覧料収入	3,868	6,244	8,220	7,068	6,350
会議室使用料収入	1,906	2,709	2,375	2,880	2,468
利用料金収入計	5,774	8,953	10,595	9,948	8,818

※上表は、平均値の算出の関係上、合計欄が合わない箇所がある。

## □ (2) 講演会等の開催 (h18-h21)

観覧者に展示内容の理解を深めて貰うため、関連する講演会、講座等を実施しました。

## ○講演会・講座・朗読会・シンポジウム

会場=展示館ホール (受講料 800~1,000円)

	期日	講師	内 容	入場者数
吉屋展	18年4月30日(日)	五大路子	『徳川の夫人たち』より(朗読)	206人
	5月3日(水・祝)	嶽本野ばら	「吉屋信子の少女小説『花物語』を中心に」	218人
	5月6日(土)	新井純	『鬼火』『童貞女昇天』(朗読)	116人
	5月13日(土)	伊藤かずえ	『あの道この道』より(朗読)	118人
中野	7月1日(土)	高橋一清	「作家・中野孝次の生き方－担当編集者28年の思い出」(講座)	294人
俳句	10月14日(土)	長谷川 権	「闘う人、虚子」	286人
	10月21日(土)	村上護	「山頭火の旅と俳句」	192人
小林	11月19日(日)	青木玉	「小林勇さんのこと」	227人
		小松美沙子	「一本の道」	
中也	19年4月22日(日)	毬谷友子	中原中也、富永太郎の詩ほか(朗読)	229人
	4月28日(土)	窪島誠一郎	「富永太郎の詩絵のこと」	179人
	5月6日(日)	高橋睦郎	「なぜ中原中也か」	199人
埴谷	10月7日(日)	島田雅彦	「100年後のふとい」	209人
	10月13日(土)	立石伯	「21世紀に生きる『死靈』」	101人
	10月20日(土)	寺田農 奥澤竹彦(音楽)	「死靈」第5章「夢魔の世界」から(朗読)	150人
濱澤展	20年4月27日(日)	三浦雅士	「濱澤龍彦と小林秀雄」	122人
	5月3日(土・祝)	高橋睦郎 濱澤龍子(ゲスト)	「最高のホスト」 ゲスト対談「シブサワ素のまま」	273人
	5月5日(月・祝)	四谷シモン	「濱澤さんと人形」	304人
	5月10日(土)	平出隆	「夢のかたち」	142人
台湾	6月14日(土)	藤井省三 紀田順一郎	対談「台湾文学の魅力」 (共催: 国立台湾文学館、台湾行政院文化建設委員会)	103人

	期 日	講 師	内 容	入場者数
台湾文学展	20年6月15日(日)	張 良澤	「台湾における梁啓超と吳新栄」 —日本統治下のある中国知識人と台湾知識人の 台湾新旧文学に対する影響(共催:同 上)	102人
	7月5日(土)	辻原 登	「台湾の文学と友人たちに寄せて」 (共催:同 上)	55人
	7月13日(日)	黃 英哲	「台湾の『藤野先生』—台湾に おける魯迅文学ー」(共催:同 上)	49人
堀田展	10月11日(土)	宮崎 駿	「方丈記私記と私」	242人
	11月15日(土)	夏八木 熱	「方丈記私記」から(朗読)	215人
	11月16日(日)	紅野 謙介 堀田百合子(ゲスト)	「堀田善衛と上海」 ゲスト対談	204人
子規から虚子展	21年3月7日(土)	稻畠 汀子	「虚子俳句の変遷」(共催)	270人
	3月28日(土)	小沢 昭一	「小沢昭一的俳句のこころ」(共催)	228人
	3月20日(金・祝) (シンポジウム①)	有馬朗人、稻畠汀子 大串章、深見けん二	「花鳥諷詠」(共催) 稻岡長(コーディネーター)	223人
鷗外展	4月4日(土) (シンポジウム②)	稻畠廣太郎、今井肖子 岸本尚毅、筑紫磐井	「花鳥諷詠」(共催) 稻岡長(コーディネーター)	167人
	4月18日(土) (シンポジウム③)	今井千鶴子、金子兜 太辻桃子、安原葉	「花鳥諷詠」(共催) 稻畠汀子(コーディネーター)	250人
	4月29日(水・祝)	千葉 俊二	講座「鷗外を読む」「雁」	120人
中島敦展	5月4日(月・祝)	佐藤 慶	「舞姫」(朗読)	258人
	5月9日(土)	加賀 乙彦	「私の鷗外」	222人
	5月17日(日)	小泉浩一郎	講座「鷗外を読む」「高瀬舟」	129人
乱歩時雨	5月24日(日)	小川 康子	講座「鷗外を読む」「文づかひ」	74人
	7月18日(土)	加賀美幸子 有富裕子(解説)	「山月記」「名人伝」(朗読) (共催:中島敦の会)	249人
	7月5日(日)	紀田順一郎	「書斎派作家 中島敦—読書と散歩ー」	180人
乱歩時雨	7月19日(月・祝)	吉崎 一衛	「中島敦の文学—中国文学との関わりからー」	190人
	10月3日(土)	小林 信彦	「乱歩の二つの顔」	174人
	11月1日(日)	寺田 農	「D坂の殺人事件」(朗読)	233人
	12月13日(日)	平野 啓子	「烏瓜の花」(朗読) (共催: NPO現代女性文化研究所)	187人

## ○コンサート及び演奏会等

期 日	講 師	内 容	入場者数
20年8月2日(土)	漢唐樂府	趁賞花燈、梅花操(会場:ホール) (共催:台湾文学館、台湾行政院文化建設委員会)	94人
21年5月30, 31日 (土, 日)	横浜市立横浜商業高等 学校	「横浜市歌」ほか (会場:港の見える丘公園)	819人

## ○展示説明会及びギャラリートークの開催 会場=中会議室（展示説明会）及びエントランスホール（無料）

	展示名	解説者	期日等	入場者数
18	吉屋信子展	展示担当者	5月21日、27日の計2回実施（展示説明会）	82人
	俳句 その魅力展	展示担当者	11月4日、4日の計2回実施（展示説明会）	46人
19	中原中也と富永太郎展	展示担当者	開催期間中の金曜日 に計6回実施	262人
	佐藤さとる展	展示担当者	開催期間中の金曜日 に計8回実施	142人
	埴谷雄高『死靈』展	展示担当者	開催期間中の金曜日 に計7回実施	127人
20	濱澤龍彦回顧展	展示担当者	開催期間中の金曜日 に計6回実施	103人
	かこさとし展	展示担当者	開催期間中の金曜日 に計7回実施	132人
	堀田善衛展	展示担当者	開催期間中の金曜日 に計2回実施	19人
21	森鷗外展	展示担当者	開催期間中の金曜日 に計6回実施	163人
	中島敦展	展示担当者	開催期間中の金曜日 に計4回実施	133人
	茂田井武展	展示担当者	開催期間中の金曜日 に計3回実施	34人
	大乱歩展	展示担当者	開催期間中の金曜日 に計6回実施	199人
	長谷川時雨展	展示担当者	開催期間中の金曜日 に計3回実施	12人

## ○その他の展示関連業務

## ○展示複製資料の作成

館蔵資料を中心に常設展等の代替展示物として複製資料の作成を行いました。

年度	製作内容等	製作点数
18	開高健「日本三文オペラ」原稿など8作家の資料	8件17点
19	島尾敏雄「第一期魚雷艇学生」原稿など5作家の資料	10件19点
20	井上靖「しろばんば」原稿など7作家の資料	10件17点
21	谷崎潤一郎「痴人の愛」原稿など8作家の資料	10件22点

## ○事業収入の状況

(第一期指定管理期間内の実績)

(単位：千円)

	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平均
図録販売収益	3,035	2,517	3,505	3,416	3,118
講演会受講料収入	1,569	951	1,547	1,459	1,382
文字活字事業収益#	1,453	1,652	1,207	1,075	1,347
事業収入計	6,057	5,120	6,259	5,950	5,847

\*上表は、平均値の算出の関係上、合計欄が合わない箇所がある。  
#文字活字文化振興事業は20年度から指定管理事業に組み替え

 (3) 文字活字文化振興事業 (h18-h21) (h18, h19は受託事業として実施)

県内の文字・活字文化振興のために講演会、朗読会、朗読コンサート、キッズクラブ事業、映画会等を実施し、読書文化の振興と若年層の活字離れ、文学離れの抑止を図り、同時に県内各所で生涯学習支援活動等を実施しました。

## ○講演会等

## ○文化講演会

共催：(財) はまぎん産業文化振興財團

会場=はまぎんホールヴィアマーレ (受講料 1,200円)

期日	講師	内容	入場者数
18年4月29日（土・祝）	永 六輔	「誰かとどこかで」	478人
19年4月30日（月・祝）	浅田 次郎	「『中原の虹』をめぐって」	421人

期日	講師	内容	入場者数
20年4月19日(土)	長谷川 樹	「『おくのほそ道』とは何か」	429人
21年5月16日(土)	平岩 弓枝	「横浜今昔」	322人
10月11日(日)	有馬 稲子	「六条の御息所」	428人

## ○講演会「私の本について話そう」

会場=展示館ホール (受講料 800円)

期日	講師	内容	入場者数
18年4月23日(日)	きむら ゆういち	『あらしのよるに』(入場無料) (子ども読書活動推進フォーラム)(共催:県子ども読書推進会議、県教育委員会)	236人

期日	講師	内容	入場者数
18年9月18日(月・祝)	夏目房之介	『孫が読む漱石』	231人
19年3月3日(土)	梁 石日	『ニューヨーク地下共和国』	118人
3月18日(日)	斎藤 栄	『湘南太平記』	185人
4月21日(日)	なかえよしを	『ねずみくんのチョッキ』(入場無料) (子ども読書活動推進フォーラム)(共催:県子ども読書推進会議、県教育委員会)	181人
8月4日(土)	佐藤さとる 柴田祐規子(聞き手)	『本朝奇談 天狗童子』	224人
20年2月2日(土)	黒岩比佐子	『食道楽』と日露戦争	160人
3月8日(土)	半藤 一利	『昭和史』	239人
8月24日(日)	かこさとし	「あそびのはなし えほんのはなし かがくのはなし」	277人
21年1月17日(土)	出久根達郎	『御書物同心日記』	149人
2月1日(日)	村岡 恵理	『アンのゆりかご 村岡花子の生涯』	202人
8月15日(土)	松居 直	『松居直のすすめる50の絵本 大人のための絵本入門』	113人
9月5日(土)	津島 佑子 陳 玉慧	『あまりに野蛮な』(台湾文学講演会) (共催:国立台湾文学館 協賛:横浜国立大学)	77人
22年2月28日(日)	三木 卓	『ほろびた国の旅』 『懐かしき友への手紙』	96人
3月14日(日)	太田 治子	『明るい方へ 父・太宰治と母・太田静子』	220人

## ○俳句大会の開催

「俳句 その魅力展」を記念して俳句大会を開催。

選評会会場=展示館ホール (投句料 一般の部2,000円 ジュニアの部200円)

期日	講師	内容	受講者数
18年10月20日(金)	星野 椿	一般の部 投句選評会・講話	93人
10月22日(日)	復本 一郎	ジュニアの部 投句選評会・講話	48人

## ○『飛ぶ読書室 この本がおもしろいよ』刊行記念講演会 会場=逗子開成中学・高等学校

(共催:日能研、みぐに出版/協力:逗子開成中学・高等学校) 会場=徳間記念ホール (受講料 無料)

期日	講師	内容	入場者数
20年11月2日(日)	紀田順一郎	『明日こそ読書 今日こそ読書 ~読書のたのしみ~』	30人

## ○子ども読書活動推進フォーラム

共催：神奈川県子ども読書推進会議、神奈川県教育委員会、(財) はまぎん産業文化振興財団

会場=はまぎんホールヴィアマーレ (入場無料)

期日	講師	内容	受講者数
18年10月28日 (土)	かこさとし	「子ども、遊び、絵本」	402人
19年10月27日 (土)	中川李枝子	「たくさんのおともだち」	384人

※20年度から後援事業へ移動

## ○台湾文学講演会

共催：国立台湾文学館 協賛：横浜国立大学

会場=展示館ホール (受講料 800円)

期日	講師	内容	受講者数
21年9月6日 (日)	朱 天心	「わたしにとっての日本/日本文学」	42人
9月19日 (土)	劉 亮雅 小谷 真理	「台湾のクィア文学と 日本のSF、クィア、ファンタジー」	48人
9月20日 (日)	紀 大偉	「台湾文学とセクシュアリティ」	43人

## ○文学セミナー

## ○文学散歩と湘南国際村・講演会 共催：湘南国際村協会 協賛：三井不動産

会場=湘南国際村センター (参加費 6,000円(18年度)、1,000円(19年度))

期日	講師	内容	受講者数
19年2月25日 (日)	新井 満	「いのちについて」(講演と文学散歩)	127人
20年2月10日 (日)	養老 孟司	「私の鎌倉・葉山」(講演)	189人

## ○藤沢・御所見公民館文学講座 共催・会場：御所見公民館・市民センター小ホール (入場無料)

期日	講師	内容	受講者数
21年9月29日 (火)	落合 教幸	「江戸川乱歩と横溝正史」	53人
10月1日 (木)	落合 教幸	「江戸川乱歩と山田風太郎」	38人
10月6日 (火)	藤井 淑禎	「江戸川乱歩と松本清張」	42人

## ○第10回図書館総合展フォーラム (共催：梅光学院大学) 会場=パシフィコ横浜 (入場無料)

期日	講師	内容	入場者数
20年11月26日 (水)	佐藤 泰正 富岡幸一郎	「今なお新しい、 磯田光一のまなざし」	40人

## ○文芸朗読会・朗読コンサート等

## ○文芸朗読会 会場=展示館ホール (受講料 1,000円)

期日	朗読者	内容	入場者数
18年12月24日 (日)	篠田 三郎	志賀直哉「網走まで」「或る朝」ほか	227人
19年 6月30日 (土)	久米 明	井上靖『敦煌』から (井上靖生誕100年記念文芸朗読会)	231人
20年 9月13日 (土)	久米 明	国木田独歩「武蔵野」 (没後100年記念国木田独歩朗読会)	164人
21年 8月16日 (日)	平田 満	大岡昇平「野火」から (大岡昇平生誕100年記念文芸朗読会)	192人

## ○中島敦生誕100年記念特別朗読会 「狂言師、敦を語り読む。」

共催：中島敦の会、学校法人横浜学園

会場：横浜能楽堂（受講料 1,000円）

期日	朗読者	内容	入場者数
21年10月2日(金)	野村万作、野村万之介 野村萬斎、石田幸雄 藤原道山(尺八)	『悟浄出世』『悟浄歎異』	456人

## ○朗読コンサート (共催：語りと音楽「花音」)

会場=展示館ホール

(入場無料)

期日	出演者	内容・会場	入場者数
18年10月25日(水)	語りと音楽「花音」	「俳句その魅力展」俳人たちの作品からほか (会場：文学館ホール)	135人
19年9月9日(日)	語りと音楽「花音」	「だれも知らない小さな国」ほか (会場：文学館ホール)	138人
20年2月16日(土)	語りと音楽「花音」	「食道楽」からほか (会場：文学館ホール)	120人
8月19日(火)	語りと音楽「花音」	「だるまちゃんとてんぐちゃん」ほか (会場：川崎市中野島こども文化センター)	12人
8月20日(水)	語りと音楽「花音」	「だるまちゃんとてんぐちゃん」ほか (会場：鎌倉市生涯学習センター)	16人
8月27日(水)	語りと音楽「花音」	「だるまちゃんとてんぐちゃん」ほか (会場：小田原・鈴鹿かまばこの里 鈴の音ホール)	50人
11月2日(日)	語りと音楽「花音」	「だるまちゃんとてんぐちゃん」ほか (会場：秦野市立図書館)	80人
9月15日(月・祝)	語りと音楽「花音」	「だるまちゃんとてんぐちゃん」ほか (会場：文学館ホール)	235人
21年8月22日(土)	語りと音楽「花音」 藤村俊介(チェロ)	「セロひきのゴーシュ」ほか (会場：文学館ホール)	194人
10月25日(日)	語りと音楽「花音」 久保寺敏郎(チェロ) 後藤暦(特別ゲスト)	「セロひきのゴーシュ」ほか (共催：語りと音楽「花音」、秦野市立図書館) (会場：秦野市立図書館)	72人

## ○かなぶんキッズクラブ事業

## ○夏休み子ども映画会の開催

会場=展示館ホール (入場無料)

期日	上映作品	入場者数
18年7月27日(木)	「森のおじいさんと3つのものがたり」「リトルツインズ」	65人
7月28日(金)	「パーさんと大あらし」「三ねん寝太郎」	90人
7月29日(土)	「オバケちゃん」「ふたりのローラ」	39人
19年8月16日(木)	「ひろしまのエノキ」「赤毛のアン」	25人
8月17日(金)	「トビウオのぼうやはびょうぎです」「ばくは王さま」ほか	37人
8月18日(土)	「雪の女王」ほか	30人
20年8月21日(木)	「からすのパンやさん」ほか	213人
8月22日(金)	「だるまちゃんとてんぐちゃん」「だるまちゃんとかみなりちゃん」ほか	187人
8月23日(土)	「だるまちゃんとだいこくちゃん」ほか	72人

期日	上映作品	入場者数
21年8月12日（水）	「ピーターと狼」ほか	56人
8月13日（木）	「生きているってすばらしい」ほか	44人
8月14日（金）	「やさしいライオン」ほか	71人

## ○「紙芝居がはじまるよ！」の開催

会場=展示館中会議室 (入場無料)

期日	出演	内容	入場者数
18年3月31日（土）	山下 康	「北風のくれたテーブルかけ」ほか	48人
19年8月12日（日）	山下 康	「つくえのうえのうんどうかい」ほか	40人
20年8月17日（日）	山下 康	「なくなかわいいおさとちゃん」ほか	54人
22年3月28日（日）	山下 康	「おいの森とざる森、ぬすと森」ほか	43人

## ○読み聞かせ会「絵本であそぼ！」の開催

会場=展示館ホール (入場無料)

期日	出演	内容	入場者数
18年8月26日（土）	よこはま文庫の会	「11ぴきのねこ」ほか	57人
19年8月25日（土）	よこはま文庫の会	「そらいろのたね」ほか	37人
20年8月30日（土）	よこはま文庫の会	「だるまちゃんとてんぐちゃん」ほか	102人
21年9月5日（土）	よこはま文庫の会	「茂田井武関連作品ほか」ほか	23人

## ○夏休み子ども向け行事の開催(ミュージアム・クイズラリーーよこはま)

期間	参加館	来館者数
18年7月17日～8月31日	県立歴史博物館など中区・西区の17館	122人
19年7月14日～9月2日	県立歴史博物館など中区・西区の16館	207人
20年7月19日～8月31日	県立歴史博物館など中区・西区の16館	182人
21年7月18日～9月1日	県博など中区・西区・旭区・金沢区内の21館	81人

## ○博物館実習・インターンシップ

各大学及び機関等から、博物館実習生とインターンシップ実習生を受け入れした。

期間	大学及び機関名	来館者数
18年7月25日～7月30日の6日間	学習院大学、聖心女子大学など9大学	10人
7,8月の11日間	関東学院大学、県立湘南高校職員など2機関	2人
19年7月31日～8月5日の6日間	桜美林大学、関東学院大学など7大学	10人
8月の2日間	関東学院大学	1人
20年8月5日～8月10日の6日間	青山学院大学、国士館大学など7大学	10人
21年8月4日～8月9日の6日間	関東学院大学など10大学	10人

## ○文字・活字文化の日記念行事

## ○記念対談・講演会の開催

会場=ホール (受講料 1,000円)

	期日	出演	内容	入場者数
18	18年10月27日（金）	荒俣 宏 紀田順一郎	「東西読書文化考」	124人
19	19年10月28日（日）	荒俣 宏 紀田順一郎	「作家と想像力－幻想怪奇文学の発見」	101人

期日	出 演	内 容	入場者数
20 20年10月26日（日）	川本 三郎 紀田順一郎	「日付のある隨想 一日記文学の魅力」	62人
21 21年10月24日（土）	紀田順一郎	「江戸川乱歩と少年探偵の夢」	215人

○文字活字文化の日（休館の場合はその前後の一日）に限り観覧料を無料にし、展示館開館時間を1時間延長した。

○展示説明会またはギャラリートーク（会場：展示館1階エントランスホール及び展示会場）

18年度 「俳句 その魅力展」 来場 45人

19年度 「埴谷雄高展」 来場 9人

20年度 「堀田善衛展 スタジオジブリが描く乱世。」 来場者数 29人

21年度 「大乱歩展」 来場 72人

○バックヤード見学

18年度 参加：1回目=4人、2回目=2人

19年度 参加：1回目=4人、2回目=9人

20年度 参加：1回目=9人、2回目=9人

21年度 参加：20人

○閲覧室ミニ展示（閲覧室利用者数）

18年度 特集「館蔵明治大正期の稀覯詩集・詩雑誌」会期：9月1日～10月29日

19年度 特集「食と文学Ⅰ」会期：9月1日～10月30日

20年度 特集「館蔵明治大正期の稀覯本(小説)」会期：8月30日～10月30日

21年度 特集「昭和初期の稀覯本(小説)」会期 10月1日～12月24日

○プレゼント抽選

18年度 展示観覧者を対象に抽選で「俳句展」図録、ミュージアムグッズを抽選でプレゼント。

19年度 展示観覧者を対象に抽選で「埴谷雄高展」図録等を抽選でプレゼント。

20年度 展示観覧者を対象に抽選で「堀田善衛展」図録等を抽選でプレゼント。

21年度 展示観覧者を対象に抽選で「大乱歩展」図録等を抽選でプレゼント。

## ○ビデオ上映会等

○ビデオ上映会の開催(林京子講演・インタビュー記録ビデオ) 会場=展示館中会議室 (入場無料)

期 日	上 映 作 品	入 場 者 数
18年8月6日（日）	ビデオ上映会「被爆とわたくし」	9人
19年8月9日（木）	ビデオ上映会「被爆とわたくし」	9人
20年8月15日（金）	ビデオ上映会「被爆とわたくし」	13人
21年8月11日（火）	ビデオ上映会「被爆とわたくし」	11人

○記録DVD上映会の開催(展覧会記録DVDの上映) 会場=展示館中会議室 (入場無料)

期 日	上 映 作 品	入 場 者 数
20年1月6日（日）	「露伴、茂吉、寅彦と小林勇展」	24人

## ○文芸映画会及び映画会の開催

## ○文芸映画を観る会ほか映画会

(共催:文芸映画を観る会 \*印は単独主催)

会場=展示館ホール (料金 各日600~700円)

期 日	内 容	入場者数
18年7月15日 (土)	「ハラスのいた日々」(中野孝次展記念映画会)	216人
7月16日 (日)	"	236人
11月30日 (木) *	「或る出版社五十年」ほか(「露伴、茂吉、寅彦と小林勇展」展記念映画会)	36人(200円)
12月1日 (金) *	「教室の子供たちー学習指導への道ー」ほか(同 上)	31人(200円)
12月9日 (土)	「風船」(原作:大佛次郎)	98人
12月10日 (日)	"	132人
19年3月10日 (土)	「沓掛時次郎」(原作:長谷川伸)	136人
3月11日 (日)	"	69人
7月14日 (土)	「黒い潮」(原作:井上靖 生誕100年記念井上靖展映画会)	156人
7月15日 (日)	"	78人
11月10日 (土)	「戦争は終った」(無限大の宇宙ー埴谷雄高『死靈』展記念映画会)	64人
11月11日 (日)	「白痴」(原作:ドストエフスキイ)(同 上)	135人
20年3月15日 (土)	「本日休診」(原作:井伏鱒二)	154人
3月16日 (日)	"	93人
6月28日 (土)	「珈琲時光」(「台湾文学館の魅力ーその多彩な世界」映画会)	88人
6月29日 (日)	"	57人
10月18日 (土) *	「風の谷のナウシカ」(堀田善衛展記念映画会)	126人(無料)
11月8日 (土) *	「モスラ」(原作:堀田善衛ほか)(同 上)	55人(無料)
11月9日 (日) *	「風の谷のナウシカ」(堀田善衛展記念映画会)	133人(無料)
21年1月10日 (土)	「時雨の記」(中里恒子生誕100年記念映画会)	203人
1月11日 (日)	"	126人
4月25日 (土)	「准」(森鷗外展記念映画会)	107人
4月26日 (日)	"	144人
5月5日 (火・祝)	「山椒太夫」(森鷗外展記念映画会)	143人
5月6日 (水・祝)	"	92人
11月7日 (土)	「死の十字路」(大乱歩展記念映画会)	176人
11月8日 (日)	"	138人
22年1月30日 (土)	「千羽鶴」(第3回「文学の森へ 神奈川と作家たち展」映画会)	179人
1月31日 (日)	"	116人

## ○「食道楽」体験イベント

会場=中会議室

期 日	解 説 者	内 容	参加人数
20年1月26日 (土)	展示担当者	関連食品の試食・家族あわせゲーム	27人

### ○図書館等連携事業

文字活字文化振興事業の一環として県内公共図書館等との共催による巡回の写真パネル文学展を開催、図書館等連携事業及び生涯学習支援活動を推進した。

### ○県内公共図書館巡回パネル展

期間	パネル展名称	共催者名/会場	入場者数
18年4月8日(土)～6月7日(水)	日本の童謡	神奈川県立図書館	840人
8月9日(木)～8月31日(木)	"	南足柄市立図書館	260人
8月18日(金)	神奈川近代文学館 館蔵逸品展	神奈川県高等学校文化連盟 (会場:鎌倉生涯学習センター)	230人
9月21日(木)～9月30日(土)	日本の童謡	湯河原町立図書館	157人
10月4日(水)～11月29日(水)	"	箱根町社会教育センター	2,140人
10月13日(金)～12月13日(水)	夏目漱石	神奈川県立図書館	1,566人
19年1月13日(土)～2月12日(月・祝)	日本の童謡	小田原かもめ図書館	3,000人
8月30日(木)～9月4日(火)	日本の童謡	小田原市立図書館(生涯学習 政策室・広報広聴室)	301人
10月11(木)～10月24日(水)	夏目漱石	伊勢原市立図書館	5,200人
10月12日(金)～12月12日(水)	井上靖	神奈川県立図書館	995人
10月26日(金)	佐藤さとる コロボックル物語	紀尾井ホール(第42回エクソン モービル児童文化賞授賞式)	450人
11月27日(火)～12月13日(木)	夏目漱石	湯河原町立図書館	372人
20年10月16日(木)～10月31日(金)	井上靖	伊勢原市立図書館	6,000人
10月27日(月)～11月21日(金)	夏目漱石(ミニパブリック展)	県立逗子高校	2,457人
11月15日(土)～11月30日(日)	夏目漱石	南足柄市立図書館	240人
21年2月14日(土)～2月26日(木)	井上靖	小田原市立かもめ図書館	200人
3月6日(金)～3月19日(木)	村井弦斎	小田原市立かもめ図書館	150人
10月5日(月)～11月14日(土)	夏目漱石(ミニパブリック展)	県立上溝南高校	2,040人
10月26日(月)～11月20日(金)	中島敦(ミニパブリック展)	県立逗子高校	2,777人
11月24日(火)～12月25日(金)	夏目漱石(ミニパブリック展)	県立座間総合高校	250人
22年1月18日(月)～2月5日(金)	中島敦(ミニパブリック展)	県立横浜桜陽高校	1,275人
1月22日(金)～2月14日(日)	井上靖	湯河原町立図書館	371人
2月10日(水)～3月6日(土)	中島敦(ミニパブリック展)	県立上矢部高校	750人

### ○文学展の制作・提供・展示協力等

○文学展パッケージの制作と提供(類似施設及び県内公共図書館後援事業(展示協力)) \*印=後援(展示協力)

期間	パッケージ等名称	主催者名/会場	入場者数
18年 4月29日(土)～6月11日(日)	夏目漱石展 (共同制作:日本近代文学館)	徳島県立文学書道館	1,876人
19年 4月8日(日)～5月20日(日)	夏目漱石展(同上)	高知県立文学館	2,695人
11月3日(土)～12月16日(日)	夏目漱石展(同上)	新宿歴史博物館	3,357人
20年7月19日(土)～9月23日(火・祝)	佐藤さとる コロボックル物語展	町田市民文学館ことばら んど	6,603人
10月28日(火)～11月30日(日)	かこさとし絵本展*	秦野市立図書館	22,420人
11月3日(土)～12月16日(日)	佐藤さとる コロボックル物語展	トータルメディア／新潟 県立自然科学館	18,289人
21年7月18日(土)～8月30日(日)	佐藤さとる コロボックル物語展	北九州市立文学館	3,867人

期間	パッケージ等名称	主催者名/会場	入場者数
21年10月20日(火)～11月23日(月・祝)	夏目漱石展 (共同制作:日本近代文学館)	川内まごころ文学館	1,032人
22年1月23日(土)～2月28日(日)	堀田善衛展 スタジオ ジブリの描く乱世。	高岡市美術館	20,817人

 (4) 資料収集 (h18-h21)

神奈川近代文学館の主要業務である県ゆかりの近代文学資料の収集、整理、保存等を実施し、資料の所蔵情報等をインターネットなどを通じて公開することで、近代文学研究の発展に寄与しました。

## ○資料収集の実績

	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
寄贈	図書	5,910冊	10,576冊	3,216冊
	雑誌	5,888冊	4,912冊	4,146冊
	特別資料	3,200件	1,132件	1,440件
	計	14,998件	16,620件	8,802件
購入	寄贈者	1,076人	1,100人	1,002人
	図書	4,331冊	698冊	659冊
	雑誌	1,037冊	1,048冊	1,270冊
	特別資料	5件	5件	4件
計		5,373件	1,751件	1,933件
寄贈者				1,945件

## ○資料登録の実績

	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	累計(※)
寄贈	図書	12,522冊	5,710冊	7,154冊	5,328冊
	雑誌	8,808冊	9,625冊	7,563冊	7,884冊
	特別資料	11,699件	6,914件	7,352件	4,644件
	小計	33,029件	22,249件	22,069件	17,856件
購入	図書	4,331冊	698冊	659冊	662冊
	雑誌	1,037冊	1,048冊	1,270冊	907冊
	特別資料	5件	5件	4件	376件
	小計	5,373件	1,751件	1,933件	1,945件
その他		8件	10件	10件	753件
合計		38,410件	24,010件	24,012件	19,811件
電算入力	図書	16,857冊	6,408冊	8,112冊	6,122冊
	雑誌	9,845冊	10,673冊	8,833冊	8,791冊
	特別資料	15,929件	7,698件	9,712件	8,521件
	計	42,631件	24,779件	26,657件	23,434件
※累計は、開館後これまでの資料の収蔵状況を表す。					

## ○資料利用の実績

	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平均
閲覧室利用者数	2,584人	2,762人	2,804人	2,908人	2,765人
資料利用者数	894人	763人	784人	802人	811人
図書利用冊数	3,389冊	2,940冊	3,657冊	2,881冊	3,217冊
雑誌利用誌数	1,979誌	1,948誌	2,302誌	2,143誌	2,093誌
雑誌利用冊数	22,651冊	17,393冊	23,619冊	20,048冊	20,928冊
特別資料利用件数	118件	145件	197件	134件	149件
同 利用点数	4,946点	4,631点	5,049点	3,440点	4,517点
OPAC(外部)利用	22,754件	21,999件	25,666件	38,147件	27,142件
資料複写件数	1,034件	908件	1,016件	844件	951件
同 枚数	43,712枚	33,648枚	32,887枚	29,676枚	34,981枚
館外貸出件数	21件	25件	20件	28件	24件
同 点数	625点	664点	487点	856点	658点
レファレンス件数	296件	216件	203件	199件	229件

## ○閲覧室ミニ展示

会場=閲覧室 (入場無料)

	ミニ展示名	会期等	閲覧室利用者数	1日平均
3	特集・「桜」をめぐって	18年3月1日～4月27日 (48日間)	597人	12人
4	特集・「音楽と文学」	4月29日～6月29日 (52日間)	565	11
5	夏休み子ども特集・「スポーツと文学」	7月1日～8月30日 (52日間)	479	9
6	当館の稀観本から 明治大正期の稀観詩集・詩雑誌	9月1日～10月29日 (52日間) (文字活字文化振興事業)	418	8
7	特集・「忠臣蔵」	11月1日～12月27日 (48日間)	347	7
8	特集・「お正月」	19年1月5日～2月27日 (38日間)	300	8
9	特集・「豆本」	3月1日～4月26日 (48日間)	401	8
10	特集・「薔薇」をめぐって	4月28日～6月28日 (53日間)	607	11
11	特集・日本の怪奇幻想文学	6月30日～8月30日 (53日間)	600	11
12	特集・食と文学Ⅰ	9月1日～10月30日 (53日間) (文字活字文化振興事業)	426	8
13	特集・冬物語	11月1日～12月27日 (49日間)	377	7
14	特集・食と文学Ⅱ	20年1月5日～2月28日 (39日間)	340	8
15	装幀の美 特集・橋口五葉	3月1日～4月29日 (50日間)	466	9
16	特集・桃太郎の世界－滑川道夫文庫資料を中心に－	5月1日～6月26日 (48日間)	551	11
17	特集・夏休み	6月28日～8月28日 (53日間)	543	10
18	特集・明治大正期の稀観本(小説)	8月30日～10月30日 (55日間) (文字活字文化振興事業)	469	9
19	特集・日本近代文学と源氏物語	11月1日～12月25日 (48日間)	439	9
20	特集・文人俳句	12月27日～21年3月29日 (64日間)	557	9
21	装幀の美Ⅱ 特集・恩地孝四郎	21年4月1日～6月28日 (76日間)	943	12
22	特集・翻訳児童文学の源流を訪ねて	7月1日～9月29日 (78日間)	678	9
23	昭和期の稀観本(小説)	10月1日～12月24日 (73日間) (文字活字文化振興事業)	688	9
24	装幀の美Ⅲ 特集・小村雪岱	12月26日～22年3月30日 (67日間)	597	9

## □ (5) 維持管理事業

文学館施設の維持運営及び管理に関する各種業務を実施し、円滑な文学館事業活動が実施可能な環境作りを行いました。

### 管理物件の維持管理業務

神奈川県立神奈川近代文学館（以下「文学館」という）の維持管理業務にあたっては「神奈川県立神奈川近代文学館の管理に関する基本協定書（以下「基本協定書」）」の仕様書に示された水準に従い、管理物件の維持保全及び人命の尊重に十全の注意を払い、良好に施設の管理し、管理業務を遂行しました。業務の詳細は以下のとおりです。

#### 1. 管理施設の保守点検に関する業務

電気事業法その他の法令に基づき、文学館の電気設備、空調、給排水衛生、昇降機等の各種設備及びこれらに付帯する設備の日常運転及び保守点検を行い、これらの設備が常に円滑に使用できるよう最良の状態に保ちました。また、建築物における環境衛生の確保に努め、常に良好な状態を維持しました。文学館は不特定多数の来館者が訪れる公共施設であり、貴重な近代文学資料を取り扱う施設であることを考慮し、環境の維持に努めました。

この件に関しての来館者からの苦情等はありません。

##### （業務内容）

- ①原則として、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「建築保全業務共通仕様書」最新版を参考とし実情に沿った形で管理業務を実施。
- ②機器の運転・操作については、法令で定められている場合はその定める所により実施し、資料の長期保全に向け必要な措置を施しました。
- ③機器の管理にあたっては、主として目視による日常点検を実施するが、必要に応じ計器等を用いた定期点検や注油など各種整備を実施し、施設の維持保全に努めました。
- ④運転管理にあたって、関連する機器類の運転状態の把握及び制御を適切に行い、効果的・効率的な運転を行うことによりランニングコストの低減を図るよう努めました。
- ⑤建築物における衛生的環境の確保に関する法律等に基づく建築物環境衛生管理技術者を選任し、法令に定める管理業務を実施しました。

##### （従事者の選任）

- ①従事者については、内容に応じて必要な知識及び技能を有する者を選任し、法令により業務を行う資格が定められている場合は、当該資格を有する者が業務を行いました。

#### 2. 管理施設の清掃に関する業務

文学館の施設内及び周辺の適切な清掃業務を日常的に行うことにより、快適な環境状態を保ち、美観の維持に努めるとともに、施設の維持保全を図りました。

この件に関しての来館者からの苦情等はありません。

##### （業務の内容）

- ①国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「建築保全業務共通仕様書」最新版を原則とし、実情に合わせて清掃作業を実施しました。
- ②清掃業務に使用する洗剤等の材料は、品質、効能及び環境配慮に留意して選定しました。
- ③清掃業務の実施にあたっては、時間、範囲及び頻度について来館者の妨げにならないよう留意し、静粛かつ丁寧に行いました。
- ④不用品の処分は、廃棄物に関する関係法令等を遵守し、資源の有効活用に努めました。

#### 3. 管理施設の保安警備に関する業務

文学館の施設内及び周辺の監視、管理、災害の予防等に努めるとともに、災害の発生等の緊急時に、来館者の安全の確保及び管理物件の保全のために必要な措置を講じることにより、秩序の維

持に努めました。

(業務の内容)

①防災・緊急体制

- ・防災（消防）計画を定め、緊急時の連絡体制及び人的配備体制等の確保に努めました。
- ・定期的に訓練を実施し、緊急時対応の習熟と意識啓発を図りました。

②常駐方式による保安警備

- ・建物内外を定期的に巡回警備し、近代文学館周辺の監視及び入退館者の管理等を行うことにより、災害の防止及び初期の発見に努めました。今年度は特に災害等による緊急事態は発生しませんでした。

③機械設備の活用による保安警備

- ・警報受信装置を監視し、巡回警備者と常に緊密な連絡を保持して異常事態に備えました。
- ・警報受信装置により災害による異常を確認したときは、速やかに急行し、事態を確認するとともに被害の拡大防止に努めました。今年度は緊急事態は発生はありませんでした。

#### 4. 管理施設の受付・案内に関する業務

文学館の来館者等に対し、受付、案内及び誘導等の必要な業務を行うことで、円滑な運営とイメージの向上に努めました。

(業務の内容)

①来館者の受付、案内、誘導及び展示等催事の説明を行いました。

- ②受付・案内業務の遂行に当たっては、常に来館者の立場に立ち、親切かつ丁寧な対応を心がけました。来館者に限らず、電話、ファックス又はインターネット等における業務の遂行時も同様に対応しました。

#### 5. 管理施設で使用する備品類の管理・調達

管理物件の維持管理業務の遂行に当たり、必要な備品類を適正に管理し、また用途に適した調達を行うことにより、円滑な文学館の運営を行いました。

(業務の内容)

①備品類の管理等は、基本協定書第35条の各号に基づき実施しました。

②備品類を調達するときは、用途、品質及び環境配慮しました。

- ③備品類を更新又は処分する際の不用品の取扱いは、廃棄物に関する関係法令等を遵守するとともに資源の有効活用に努めました。

#### 管理施設の運営に関する業務

文学館が「公の施設」であることを踏まえ、住民の平等利用を確保するとともに、文学館の設置目的を踏まえて適切な運営に努めました。常に利用者の立場に立ち、誠意ある応対を行うことでサービスの向上に努めました。業務の詳細は以下のとおりです。

#### 1. ホール及び会議室の利用受付、承認に関する業務

ホール等の利用の受付及び承認に関する業務では、利用者の利便を図り、広報に努め、利用率の向上を図りました。また年度途中から公共施設利用予約システムへの参加を行い、インターネットによる電子予約を行えるように利便性の向上を図り、利用率が上がりました。

(業務の内容)

- ①ホール等の利用の受付及び承認に関する業務は、条例第11条、第17条及び規則第4条に基づき実施しました。

- ②ホール等の利用の受付及び承認に関する業務は、知事の承認を得て定める利用規程に基づき遂行し、公平性の確保に努めました。

- ③県公共施設利用予約システムを用いて、ホール等の利用の受付及び承認に関する業務を行いました。ただし、予約システムに不慣れな利用者に対しては個々の業務において、利用者側のニーズに合わせた応対を行い、より快適な利用環境の提供を心がけました。

## 2. 管理施設の利用案内に関する業務

管理施設の利用案内に関する業務では、利用者の立場に立った情報の提供を心がけ、利便性の向上に努めました。

(業務の内容)

①適正な人的配置を行い、掲示、ホームページ及びその他広報媒体を活用して情報の提供に努めました。併せて、基本協定書第57条に基づく県民への周知を徹底しました。

## 3. 管理施設の利用に伴う備品類の貸出しに関する業務

管理施設の利用に伴う備品類の貸出しに関する業務では、常に利用者の要望の把握に努め、利便性の向上に努めました。

(業務の内容)

①貸出しに供する備品類は、利用者のニーズに応じて、適切な管理及び調達に努め、常に安全且つ簡易に使用できる状態を保ちました。来館者からの苦情等は寄せられておりません。

## 4. ホール等施設及び展示室観覧の利用料金徴収に関する業務

ホール等の施設利用料金及び展示室の観覧利用料金の徴収については事故防止に努めました。また、利用者に対して充分な説明責任を果たし、誠意ある応対を心がけました。

(業務の内容)

①利用料金の額は、周辺施設及び類似施設の料金額等を参考に、条例別表に定める額の範囲内において、知事の承認を得て定めました。

②利用料金の減免については、条例第13条の規定に基づき、知事の承認を得て定める基準に基づき適正かつ公正に実施しました。

## 5. その他の管理施設の運営に関する業務

休館日及び開館時間については条例第9条及び第10条の規定に基づき、適切に定め、実施しました。またその内容を利用者に掲示、チラシ配布、ホームページ等への掲示により周知しました。

(6) 自主事業（管理費）＝財団本部事業

財団本部の主宰する自主事業である友の会活動等を通じて、文学館事業活動の支援を図り、各種行事等の開催により、活性化を果たしました。

## ○機関誌「神奈川近代文学館」の刊行

文学館事業の広報と活動報告、資料集情報等を掲載した機関誌を年4回のペースで刊行、配布しました。

年度	発行月	刊行内容	部数
18	4, 7, 10月、19年1月	第92号から第95号	各3,000部
19	4, 7, 10月、20年1月	第96号から第99号	各3,000部
20	4, 7, 10月、21年1月	第100号から第103号	各3,000部
21	4, 7, 10月、22年1月	第104号から第107号	各3,000部

## ○友の会の活動

友の会の集い、文学講座、文学散歩などを開催し、文学館事業活動の活性化を図りました。

年度	会員数	活動内容
2006（平成18）	956名	友の会の集い 6月4日（日）「古書の世界から見る日本の近代文学」（講師：東原武文）参加42人 5月17日（水）、26日（金）文学散歩「吉屋信子展記念本郷」参加96人 6月15日（木）、16日（金）文学散歩〈近隣博物館〉参加23人 8月19日（土）文学講座「私が会った作家たち」（講師：鈴木健次）参加52人 11月2日（木）、8日（水）文学散歩〈俳句〉参加82人
2007（平成19）	883名	5月10日（木）、25日（金）文学散歩「中原中也と富永太郎展記念武藏野」参加99人 友の会の集い 6月2日（日）「大岡昇平『武藏野夫人』と富永家」（講師：富永一矢）参加52人 6月20日（水）、22日（金）文学散歩〈近隣博物館〉参加29人 12月9日（日）文学講座「鷗外文学と都市空間」（講師：小泉浩一郎）参加40人 2月23日（土）、29日（金）文学散歩「村井弦斎展記念 平塚・茅ヶ崎」参加90人
2008（平成20）	808名	5月15日（木）、21日（水）、23日（金）文学散歩「濱澤龍彦展記念鎌倉」参加106名 友の会の集い 6月21日（土）「『坊っちゃん』 - 『頬』から見えてくるもの」（講師：秋山豊）参加42人 7月9日（水）、11日（金）文学散歩〈近隣博物館〉参加66名 11月12日（水）、20日（木）文学散歩〈津久井・城山〉 参加76名 2月7日（土）、8日（日）文学講座「今読むプロレタリア文学」（講師：林淑美）参加62名
2009（平成21）	879名	5月27日（水）、6月5日（金）文学散歩「森鷗外展記念谷根千」参加96名 友の会の集い 6月27日（土）「横浜開港と近代新聞の歩み」（講師：張宝芸）参加23人 6月19日（金）、7月3日（金）文学散歩〈近隣博物館〉参加46名 10月14日（水）、20日（火）乱歩歌舞伎観劇〈国立劇場〉参加88名 12月5日（土）、12日（土）文学講座「長谷川時雨展記念連続講座」（講師：尾形明子）参加130名 2月24日（水）、26日（金）文学散歩〈近隣博物館・三渓園〉参加39名

## ○支援する会の活動

財団本部事業活動への資金援助及び指定管理事業への助成並びに広報活動支援等を受けました。

	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	累計
会員数	108人	115人	118人	119人	461人
会費口数	119口	131口	135口	141口	526口

## ○他館等への後援・協力

## ○後援事業

○横浜山手ヘフト祭 (主催: 横浜山手ヘフト祭実行委員会、横浜交響楽団、社団法人横浜演劇研究所、岩崎博物館) (共催: 横浜・演劇の会 後援: 大佛次郎記念館、当館 協賛: キリンビール株式会社)

	期 間	会 場
第35回	18年5月20日(土)	横浜外国人墓地、山手ゲーテ座
第36回	19年5月26日(土)	横浜外国人墓地、山手ゲーテ座
第37回	20年5月25日(日)	横浜外国人墓地、山手ゲーテ座
第38回	21年5月24日(日)	横浜外国人墓地、山手ゲーテ座

## ○ゆめかながわシニアフェスタ「第2回かながわシニア短歌大会」

(主催: 神奈川県、かながわシニア社会参加推進センター (社会福祉法人神奈川社会福祉協議会) 後援: 当館)

	期 間	会 場
第2回	18年10月9日(月・祝)	横浜市健康福祉総合センター「ホール」
第3回	19年10月13日(土)	横浜市情報文化センター
第4回	20年10月13日(月・祝)	横浜市情報文化センター
第5回	21年11月7日(土)	神奈川県庁大会議場

## ○子ども読書活動推進フォーラム

(主催: 神奈川県子ども読書活動推進会議、神奈川県教育委員会、財団法人はまぎん産業文化振興財团 後援: 当館)

期 間	講演内容	会 場
19年4月19日(土)	事例発表、講演(講師: 戸田和代)	展示館ホール
20年10月13日(土)(協力)	詩の朗読、講演(講師: 矢崎節夫)	はまぎんホールヴィアマーレ
21年10月3日(土)(協力)	群読体験、講演(講師: 浜尾朱美)	かながわ県民センター

## ○上記以外の後援

県内外の各団体による開催事業等について後援を行った。

(18年度)

## 独騎の会山本周五郎作品上演会

主 催 独騎(いっき)の会

期 日 10月15日(日)

上演作品 山本周五郎原作「ひとごろし」

戯曲・演出 金澤眞

会 場 神奈川近代文学館 展示館ホール

## 中島敦の会講演会「中島敦における《見る》ことについて」

主 催 中島敦の会、学校法人横浜学園

期 日 11月3日(金・祝)

講 演 諸坂成利

会 場 神奈川近代文学館 展示館ホール

(19年度)

## 生誕百年記念「高原の薰風のなかの井上靖展」

主 催 軽井沢高原文庫

期 日 7月27日(金)~9月24日(月)

会 場 軽井沢高原文庫

企画展「パラオーふたつの人生 鬼才・中島敦と日本のゴーギャン・土方久功」

主 催 世田谷美術館

期 日 11月17日(土)～2008年1月27日(日)

会 場 世田谷美術館

横浜詩人会創立50周年記念事業

主 催 横浜詩人会

期 日 9月28日(日)～10月4日(土)、10月12日(日)

会 場 神奈川県立かながわ労働プラザ、ブリーズベイホテル

(20年度)

大衆文学研究会神奈川支部研究会

主 催 大衆文学研究会神奈川支部

期 日 11月29日(土)

会 場 中会議室

企画展「北原武夫と宇野千代－華麗なる文学の同伴者－」

主 催 栃木県・壬生町教育委員会

期 日 2月14日(土)～3月22日(日)

会 場 壬生町立歴史民俗資料館

### ○協力事業

他館開催の展覧会事業等について協力を行った。

### ○横浜山手芸術祭

(主催：横浜山手芸術祭実行委員会、財団法人横浜市緑の協会、財団法人横浜市芸術文化振興財団、横浜市市民活力推進局横浜市中区役所 協力：当館)

	期 間	会 場
第2回	20年2月1日～3月2日	山手西洋館ほか21団体（当館も参加）
第3回	21年2月1日～3月8日	山手西洋館ほか21団体（当館も参加）
第4回	22年2月1日～3月7日	山手西洋館ほか21団体（当館も参加）

### ○かながわ子ども・子育て支援月間

(主催：県保健福祉部子ども家庭課 協力：当館)

	期 間	参加内容
第1回	19年8月12日、16日～18日、25日	かなぶんキッズクラブ（紙芝居、映画会、読み聞かせ会）
	8月4日～9月30日	「佐藤さとる コロボックル物語展」
第2回	20年8月17日、21日～23日、30日	かなぶんキッズクラブ（紙芝居、映画会、読み聞かせ会）
	8月9日～9月28日	「かこさとし『だるまちゃんとてんぐちゃん』展」
第3回	21年8月12日～8月14日	かなぶんキッズクラブ「夏休み子ども映画会」
	8月8日(土)～9月27日(日)	「茂田井武展 子どもたちへの贈りもの」

### ○上記以外の協力事業等

(18年度)

#### ○鈴木信太郎展

主 催 財団法人そごう美術館、NHK横浜放送局

期 間 10月21日(土)～11月26日(日)

会 場 そごう美術館

(19年度)

○井泉水全国自由律俳句大会

主 催 自由律俳句層雲  
期 日 3月1日(日)～5月31日(日)

(20年度)

○富山・神奈川文化交流事業

富山県庁の協力を得て、富山県出身の作家・堀田善衛の郷里・伏木町と富山県、高岡市の観光情報を探査し、多種のパンフレットを配布。富山と神奈川の文化交流を行いました。

協 力 富山県知事政策室  
期 日 10月4日(土)～11月24日(月・振休)  
会 場 神奈川近代文学館

○横浜元町ショッピングストリート交流事業

元町S S会を通じて元町の各店舗に「堀田善衛展 スタジオジブリが描く乱世。」のパネルを展示し、同時に当館で元町商店街の紹介コーナーを設け、地元商店街との交流を図りました。

協 力 信濃屋、フクゾー洋品店、キタムラ、山岡毛皮店、宝田商店、近沢レース店  
期 日 10月1日(木)～10月19日(月)  
会 場 元町商店街3丁目6店舗

(21年度)

○井泉水全国自由律俳句大会

主 催 自由律俳句層雲  
投句期間 3月1日(日)～5月31日(日)

○提携事業

(18～21年度)

○交通広告等の支援協力

特別展および企画展のポスター、チラシ等について駅貼り、設置の支援を受けました。

東京急行電鉄(株)、相模鉄道(株)、京浜急行電鉄(株)、横浜高速鉄道(株)、小田急電鉄(株)の協賛、協力により県民への一層の周知を図りました。

(19年度)

○所蔵資料紹介のための刊行提携事業

提携刊行事業として以下の書籍の制作・監修に関わり、刊行を行いました。

神奈川近代文学館蔵『夏目漱石落款集成』(発行:雄松堂書店) 頒価:29,400円



## 資料課業務の概略 (特別資料、図書、雑誌)

受 入 班	主な業務内容
<div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">下 見</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">▼</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">収 書</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">▼</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">燻 蒸</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">▼</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">仕 分 け</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">▼</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">クリーニング</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">▼</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">装 備</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">▼</div> </div>	<div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">入 力</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">▼</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">蔵 書 印</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">▼</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">配 架</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">▼</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">台 帳 出 力</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">▼</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">礼 状</div> </div>
<div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">分 類</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">▼</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">整 理 情 報 入 力</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">▼</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">ラベル出力</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">▼</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">配 架</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">▼</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">統 計</div> </div>	<div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">新 刊 書</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">研究 書・作品 等 の 整 理</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">古 書</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">作品 類・貴 重 書 の 整 理</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">個 人 文 庫 整 理・目 錄 作 成</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">修 理</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">破 損 図 書 の 修 理、保 存 対 策</div> </div>
雑 誌 班	主な業務内容
<div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">購 入</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">寄 贈</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">▼</div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; width: 100%; border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">古 書</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">定期</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">大 口・文 庫 → 収 書</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; width: 100%; border: 1px dashed black; margin-bottom: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">小 口</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">定期</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">→ 郵 送 等</div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">▼</div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; width: 100%; margin-bottom: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">燻 蒸</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">台 帳</div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">▼</div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; width: 100%; margin-bottom: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">仕 分 け</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">蔵 書 印</div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">▼</div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; width: 100%; margin-bottom: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">クリーニング</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">修 理</div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">▼</div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; width: 100%; margin-bottom: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">書 誌 作 成</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">配 架</div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">▼</div> </div>	<div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">○ 購入 (図書資料) 新刊書選書 → 主に研究書</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">古書選書 → 主に作品</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">○ 寄贈 (全資料) 大口中口寄贈図書</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">小口寄贈図書</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">○ 新刊書寄贈 出版社寄贈図書</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">○ 燻蒸 (資料課、展示課の全資料の燻蒸業務)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">○ 購入 (特別資料・雑誌)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">○ 特別資料の受入</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">○ 寄贈申込窓口</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">○ 収書日程調整、運送手配</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">○ バーコードラベル作製</div> </div>
特 別 資 料 班	主な業務内容
<div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">資 料 調 査</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">▼</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">分 類</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">▼</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">テキスト入力</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">▼</div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; width: 100%; margin-bottom: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">ラベル出力</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">配 架</div> </div> </div>	<div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">○ 特資整理を中心して受入班と共同で受入も担当</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">○ 直筆資料を種別により分類</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">○ 作品名、著者名、初出、年代等を調査</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">○ 未発表資料の調査</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">○ 読み下し</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">○ 写真整理</div> </div>

(参考資料)

## 展示講業務の概略(特別展の準備から終了までの作業)

